

11939/111

行政試驗法令及問題目次

辯護士

辯護士法 明治二十六年三月三日法律第七號

辯護士懲戒規則 明治二十六年五月十日法律第九號

公證人規則 明治十九年八月十日法律第二號

公證人規則施行細則 明治十九年八月十日法律第二號

文官試驗規則 明治廿七年七月勅令第三十七號

文官試驗補及見習ニ關スル規則 明治廿三年二月勅令第八號

文官高等試驗手續 明治廿年十二月廿六日文官試驗局定

判任官高等試驗ヲ受クル者 明治廿年十二月勅令第六十四號

目次

- 一 丁
- 七 丁
- 十一 丁
- 二十九 丁
- 三十七 丁
- 四十五 丁
- 四十六 丁
- 五十 丁
- 五十三 丁



郡區長ハ當分内務大臣ノ指定科目ニ依リ試験ス明治二十年七月閣令第二十號……………五十三丁

郡區長試験條規明治廿年十二月内務省令第五號……………五十四丁

司法官
判事檢事登用試験規則明治廿四年五月司法省令第三號……………五十五丁

裁判所書記
裁判所書記登用試験規則明治廿四年五月司法省令第四號……………六十一丁

執達吏
執達吏登用規則明治廿三年八月司法省令第二號……………六十三丁

問題目錄

代言人
明治十九年……………自一至七

明治二十年……………自八至十四

明治廿一年……………自十五至十九

明治廿二年……………自二十至二十四

明治廿三年……………自二十五至二十九

明治廿四年……………自三十至三十四

明治廿五年……………自三十五至三十九

公證人

明治廿年……………自一至五

判事檢事

明治十八年……………自六至十

明治十九年……………自十一至十五

明治廿年……………自十六至二十

明治廿一年……………自二十一至二十五

明治廿二年……………自二十六至三十

明治廿三年……………自三十一至三十五

明治廿四年……………自三十六至四十

目次

裁判所書記

明治廿一年

明治廿二年

明治廿三年

執達吏

明治廿三年

自六十八丁
至七十八丁

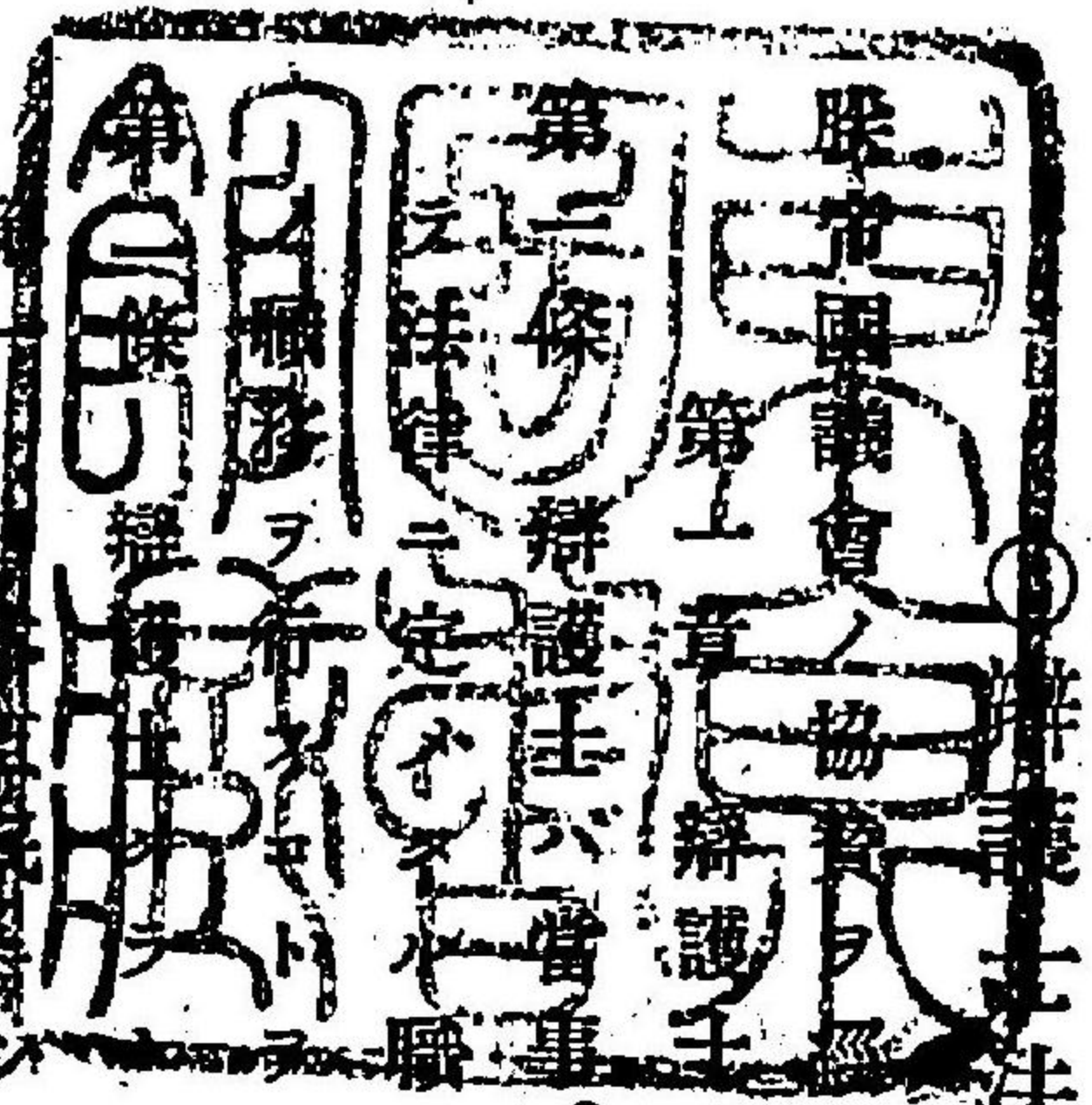
自六十三丁
至六十四丁
自六十七丁
至六十八丁
自六十六丁
至六十七丁
自六十五丁
至六十六丁

現行試驗法令及問題目次終

現行試驗法令及問題

明法堂編輯部編纂

○辯護士



辯護士法(明治二十六年三月三日法律第七號)

法律第二十條 辯護士ノ資格及職務

第一章 辯護士ノ資格及職務

第一條 辯護士ニ當ル者ノ委任ヲ受ケ又ハ裁判所ノ命令ニ從ヒ通常裁判所ニ於テ其職務ヲ行フモノトス但シ特別法ニ因リ特別裁判所ニ於テ其職務ヲ行フモノトス

第二條 辯護士ニ當ル者ハ左ノ條件ヲ具フルコトヲ要ス

第三條 辯護士試驗ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

辯護士法

第四條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得

第一 判事檢事タル資格ヲ有スル者又ハ辯護士ニシテ其ノ請求ニ因リ登録ヲ取消シタル者

第二 法律學ヲ修メタル法學博士帝國大學法律科卒業生舊東京大學法學部卒業生司法省舊法學校正則部卒業生及司法官試補マリシ者

第五條 左ニ掲クル者ハ辯護士タルコトヲ得ス

第一 重罪ヲ犯シタル者但シ國事犯ニシテ復權シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二 不敬罪偽造罪偽證罪賄賂罪誣告罪竊盜罪詐欺取財罪費消罪贓物ニ關スル罪遺失物埋藏物ニ關スル罪家資分散ニ關スル罪及刑法第七十五條同第二百六十條同第二百八十二條同第二百八十六條同第二百八十七條同第三百六十條ニ記載シタル定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者

第三 公權停止中ノ者

第四 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第六條 辯護士ハ報酬アル公務ヲ兼ヌルコトヲ得ス但シ帝國議會議員府縣會常置委員ト爲リ又ハ官廳ヨリ特ニ命セラレタル職務ヲ行フハ此ノ限ニ在ラス

辯護士ハ商業ヲ營ムコトヲ得ス但シ辯護士會ノ許可ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章 辯護士名簿

第七條 辯護士ハ辯護士名簿ニ登録セラルコトヲ要ス

第八條 各地方裁所ニ辯護士名簿ヲ備フ

辯護士ハ其ノ氏名ヲ登録シタル地方裁所ノ所屬トス

刑事訴訟法第二百六十四條及第二百七十九條ノ所屬辯護士ハ受訴裁所所在地ノ辯護士ヲ以テ之ニ充ツ

第九條 辯護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ其所屬地方裁所ノ檢事局ヲ經由シテ司法大臣ニ請求書ヲ差出スベシ

登録請求書ニハ第二條乃至第六條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添フヘシ

第十條 登録ヲ請フ者ハ登録手数料トシテ金二十圓ヲ納ムヘシ

他ノ地方裁所ニ登録換ヲ爲ストキハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

第十一條 登録ニ關スル規則ハ司法大臣之ヲ定ム

第三章 辯護士ノ權利及義務

第十二條 辯護士ハ登録後三年ヲ經過スルニ非サレハ大審院ニ於テ其ノ職務ヲ

行フコトヲ得ス但シ三年以上上判事檢事マリシ者ハ此ノ限ニ在ラス
第十三條 辯護士ハ正當ノ理由ヲ證明スルニ非サレハ裁判所ノ命シタル職務ヲ行フヲ辭スルコトヲ得ス

第十四條 辯護士ハ左ニ掲クル訴訟事件ニ付キ其ノ職務ヲ行フコトヲ得ス

第一 相手方ノ協議ヲ受ケテ之ヲ贊助シ又ハ委任ヲ受ケタル事件

第二 判事檢事奉職中取扱ヒタル事件

第三 仲裁手續ニ依リ仲裁人ト爲リテ取扱ヒタル事件

第十五條 辯護士ハ係争權利ヲ買受クルコトヲ得ス

第十六條 辯護士ハ訴訟事件ノ委任ヲ承諾セサルトキハ速ニ其ノ旨ヲ委任者ニ通告スヘシ若通告ヲ怠リタルトキハ之カ爲メ生シタル損害ノ責ニ任ス

第十七條 辯護士ハ所屬地方裁判所又ハ其ノ管内區裁判所所在ノ地ニ事務所ヲ定メ之ヲ所屬地方裁判所檢事局ニ届出ヘシ

第四章 辯護士會

第十八條 辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所毎ニ辯護士會ヲ設立スヘシ

第十九條 辯護士會ハ所屬地方裁判所檢事正ノ監督ヲ受ク

第二十條 辯護士會ニ會長ヲ置ク又副會長ヲ置クコトヲ得

第二十一條 辯護士會ハ毎年定期總會ヲ開ク又臨時總會ヲ開クコトヲ得

第二十二條 辯護士會ハ便宜ニ依リ常議員ヲ置クコトヲ得

第二十三條 辯護士會ハ其ノ會則ヲ定メ檢事正ヲ經由シテ司法大臣ノ認可ヲ受クヘシ

辯護士ハ所屬辯護士會ノ會則ヲ遵守スヘシ

第二十四條 辯護士ハ辯護士會ニ加入シタル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得

第二十五條 辯護士ハ其ノ所屬地方裁判所管轄外ニ事務所ヲ設ケ職務ヲ行ハムトスルトキハ其ノ職務ヲ行フヘキ地方裁判所所在ノ辯護士會會則ヲ遵守スヘシ

第二十六條 辯護士會會則ニハ會長副會長常議員ノ選舉及其ノ職務總會常議員會及其ノ議事ニ關スル規程辯護士ノ風紀ヲ保持スル規程並ニ謝金及手数料ニ關スル規程其ノ他會務ノ處理ニ必要ナル規程ヲ設クヘシ

第二十七條 會長副會長及常議員選舉ノ結果總會及常議員會開會ノ日時場所及議題ハ辯護士會ヨリ之ヲ檢事正ニ届出ヘシ

第二十八條 辯護士會ニ於テハ左ノ事項ノ外議スルコトヲ得ス

- 第一 法律命令又ハ辯護士會會則ニ規定シタル事項
- 第二 司法大臣又ハ裁判所ヨリ諮問シタル事項
- 第三 司法上若ハ辯護士ノ利害ニ關シ司法大臣又ハ裁判所ニ建議スル事項
- 第二十九條 檢事正ハ辯護士會ノ會場ニ臨席スルコトヲ得又會議ノ結果ヲ報告セシムルコトヲ得
- 第三十條 辯護士會ノ會議ニシテ法律命令及辯護士會會則ニ違フモノアルトキハ司法大臣ハ其ノ議決ヲ無効トシ又ハ其ノ議事ヲ停止スルコトヲ得
- 第五章 懲戒
- 第三十一條 辯護士ニシテ此ノ法律又ハ辯護士會會則ニ違背シタル所爲アルトキハ會長ハ常議員會又ハ總會ノ決議ニ依リ懲戒ヲ求ムル爲檢事正ニ申告スヘシ
- 檢事正ハ會長ノ申告ニ依リ又ハ職權ヲ以テ懲戒訴追ヲ檢事長ニ請求スヘシ
- 第三十二條 辯護士ニ對スル懲戒事件ニ付テハ管轄控訴院ニ於テ懲戒裁判所ヲ開クヘシ
- 第三十三條 懲戒罰ハ左ノ四種トス
- 第一 譴責

- 第二 百圓以下ノ過料
- 第三 一年以下ノ停職
- 第四 除名
- 第三十四條 懲戒處分ニ付テハ判事懲戒法ノ規定ヲ準用ス
- 附則
- 第三十五條 現在ノ代言人ハ本法施行ノ日ヨリ六十日以内ニ辯護士名簿ニ登録ヲ請フトキハ試験ヲ要セスシテ辯護士タルコトヲ得
- 第三十六條 現在ノ代言人本法施行前ニ委任ヲ受ケタル事件ニ付テハ其ノ判決ニ至ルマテ職務ヲ行フコトヲ得
- 第三十七條 第十二條ノ規定ハ現在ノ代言人ニ之ヲ適用セス
- 第三十八條 本法ハ明治二十六年五月一日ヨリ施行ス
- 明治十三年司法省甲第一號布達代言人規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

○辯護士試験規則(明治二十六年五月十日司法省令第九號)

- 辯護士試験規則左ノ通り相定ム
- 第一條 辯護士試験ハ毎年一回之ヲ行フ但其期日ハ司法大臣之ヲ定メ三箇月前

官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二條 試験委員長及委員ハ判事検事司法省高等官ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條 試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 試験委員附屬ノ書記ハ司法屬又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第五條 辯護士法第五條ニ該當スル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第六條 試験志願者ハ其願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ試験ヲ受クヘキ裁判所ノ検事局ヲ經由シテ之ヲ試験委員長ニ差出ス可シ

一 履歷書

二 辯護士法第五條第一號但書及ヒ第四號ニ該ル者ハ其復權又ハ債務ノ辨償ヲ終ヘタル證明書

第七條 試験志願者ハ試験手数料トシテ金拾圓ヲ納ム可シ但其手数料ハ登記印紙ヲ用井之ヲ願書ニ貼付ス可シ

手数料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試験ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第八條 試験ハ筆記口述ノ二様トス

筆記試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ各科目ニ就キ之ヲ施行ス

口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第九條 筆記試験ハ各控訴院ニ於テ之ヲ行フ但事宜ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ行フコトアル可シ

口述試験ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ

第十條 筆記試験ニ合格シタル者ニ非サレハ口述試験ヲ行ハス

第十一條 試験ニ關スル細則ハ試験舉行毎ニ試験委員ニ於テ之ヲ定ム可シ

第十二條 試験委員長ハ試験ノ成績及ヒ及第者ノ氏名ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十三條 試験及第者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十四條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第十五條 試験願書及ヒ履歷書ノ書式ハ左ノ如シ

書式

試験願書用紙美濃紙

族籍

氏

名
何年何ヶ月

私儀辯護士志願ニ付試験相受度別紙履歷書及證明書相添此段奉願候也

年月日

現住所

氏

名

辯護士試験委員長氏名殿

履歷書用紙裏面紙

族籍

氏

名

出生年月日

學事

- 一何年何月ヨリ何地何某ニ就キ又ハ何學校ニ入り何年何月迄何學ヲ修メ又ハ何學科ヲ卒業ルノ類
- 一何年何月ヨリ何官私立學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其證書寫別紙ノ如シノ類
- 一何年何月何學校若クハ其他ニ於テ何々ノ試験ヲ受ケ及第ス其證書寫別紙ノ如シノ類

職業

一何年何月ヨリ何年何月迄何會社ノ役員トナリ又ハ何學校教員若クハ何官廳

何官ト爲リタルノ類

賞罰

一何年何月何地ニ於テ何々ノ事由ノ爲メ何賜ヨリ賞ヲ受ケ何年何月何々ノ事由ノ爲メ何地ニ於テ罰又ハ刑ヲ受ク其辭令書又ハ宣告書寫別紙ノ如シノ類右ノ各項中記載ス可キ廉ナキ者ハ其旨ヲ記載ス可シ

年月日

現住所

氏

名

○公證人

○公證人規則(明治十九年八月法律第二號)

朕公證人規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

公證人規則

第一章 總則

第一條 公證人ハ人民ノ囑託ニ應シ民事ニ關スル公正證書ヲ作ルヲ以テ職務ト爲ス

第二條 公證人ハ法律命令ニ背キタル事件ノ公正證書又ハ他ノ官吏ノ作ル可キ

公證人

公證書類ヲ作ルコトヲ得ス若シ之ヲ作リタルトキハ公正ノ効ヲ有セス
 第三條 公證人ノ作リタル公正證書ハ完全ノ證據ニシテ其正本ニ依リ裁判所ノ命令ヲ得テ執行スルカアルモノトス但刑事裁判所ニ偽造ノ訴アルトキハ其證書ノ執行ヲ中止スルコトヲ得

第四條 公證人ハ治安裁判所ノ管轄地ヲ以テ受持區トシ其區内ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ受ケタル町村内ニ住居シ其住宅ニ役場ヲ設ケ役場ニ於テ職務ヲ行フ可シ但役場外ニ住居セントスルトキハ管轄始審裁判所ノ認可ヲ受ク可シ
 已ムヲ得サル事件ニ付テハ受持區内ニ限り役場外ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第五條 各區内公證人ノ員數ハ司法大臣之ヲ定ム
 第六條 公證人ハ司法大臣ニ隸屬シ控訴院長始審裁判所長ノ監督ヲ受クルモノトス

第七條 公證人其受持區内ニ於テハ區外人ノ爲メニモ職務ヲ行フ可シ但受持區外ニ於テハ何人ノ爲メニモ職務ヲ行フコトヲ得ス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第八條 公證人ハ理由ナクシテ人民ノ囑託ヲ拒ムコトヲ得ス若シ之ヲ拒ミタルトキ囑託人ノ求アレハ其理由ヲ記シテ渡ス可シ
 第九條 公證人ノ職務執行上ニ關シ不服アル者ハ管轄始審裁判所ニ抗告スルコトヲ得

第十條 公證人ハ公證人何某ト刻シタル方六分ノ役印ヲ作り其印鑑ニ氏名ヲ手書シ之ヲ管轄始審裁判所及治安裁判所ニ差出ス可シ
 前項ノ印鑑ヲ差出サ、ル間ハ職務ヲ行フコトヲ許サス若シ之ヲ行ヒタルトキハ其書類ハ公正ノ効ヲ有セス

第十一條 公證人已ムヲ得サル事故アリテ職務ヲ行フコト能ハサルトキハ近隣ノ公證人ニ代理ヲ囑シ管轄始審裁判所ニ其旨ヲ届出可シ
 第十二條 公證人ハ筆生ヲ置キ書類ヲ作ル補助ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 公證人ノ作ル證書及謄本ノ用紙ハ某始審裁判所管内公證人役場ト刻シタル罫紙ヲ用フ可シ
 第十四條 公證人ノ取扱フ可キ書類左ノ如シ

- 第一 原本 證書ノ本紙ニシテ公證人ノ保存スルモノ
- 第二 正本 原本ノ全文ヲ記シタルモノニシテ本文義務ノ執行ヲ裁判所ニ願出可キ旨ヲ其末尾ニ記載シタルモノ

公證人

第二 抄録正本 原本ノ一部分ヲ記シ其末尾ニ前項ト同一ノ記載アルモノ
第四 正式謄本 原本ノ全文ヲ寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可キモノ
第五 抄録正式謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノニシテ原本ニ代ヘ得可
キモノ

第六 謄本 原本ノ全本ヲ寫シタルモノ

第七 抄録謄本 原本ノ一部分ヲ抄寫シタルモノ

第八 見出帳 日々授受シタル書類ノ番號種類等ヲ順次ニ記入スルモノ

第十五條 原本其他書類ノ本書ハ役場ニ之ヲ保存シ他ノ官吏ノ公證ヲ受クル爲

メノ外裁判所ノ命令ニ依ルニ非サレハ役場外ニ出スコトヲ得ス

第十六條 裁判所ノ命令ニ依ルノ外關係外ノ者ニ書類ノ謄本ヲ渡ス可カラス

第十七條 公證人ハ其取扱ヒタル公證事件ヲ漏洩ス可ラス

第二章 公證人ノ選任及試験

第十八條 公證人タル可キ者ハ左ノ件々ヲ具備スルヲ要ス

第一 滿二十五歳以上ナル事

第二 身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ差入ルノ事

第三 定式試験ノ及第證書ヲ有スル事但裁判官檢察官マリシ者及法學士法科

大學卒業生代言人ハ此條件ヲ要セス

第四 丁年者二名以上ニテ其品行ヲ保證スル證書ヲ有スル事

第十九條 保證金ノ額ハ土地ノ狀況ニ從ヒ貳百圓以上五百圓以下ニ於テ豫メ司

法大臣之ヲ定ム

第二十條 左ニ掲クル者ハ公證人タルコトヲ得ス

第一 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第二 盜罪詐僞罪賄賂收受ノ罪及贖物ニ關スル罪ヲ犯シ刑ヲ受ケタル者

第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四 官吏懲戒令ニ依リ免職セラレタル者

第二十一條 公證人ヲ試験スル場所及期日ハ司法大臣之ヲ定メ少クモ二箇月前

ニ告示ス可シ

第二十二條 試験委員ハ控訴院若クハ始審裁判所ノ裁判官二名檢察官一名トシ

司法大臣臨時之ヲ命ス

第二十三條 試験ノ科目ハ公證人規則民法訴訟法商法其他公證人ノ職務ニ關ス

ル法律命令トス

第二十四條 公證人ヲラント欲スル者ハ願書ニ試験及第證書ノ寫ヲ添ヘ管轄始

公證人

審裁判所若クハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ差出ス可シ但裁判官檢察官タリシ者ハ其官記法學士ハ其學位記法科大學卒業生ハ其卒業證書代言人ハ其免許狀ヲ以テ及第證書ニ代フルコトヲ得

第二十五條 公證人ハ司法大臣之ヲ任ス

第二十六條 試験ノ方法ハ筆記口述ノ二種トス筆記試験ニ合格セサル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第二十七條 試験及第者ニハ及第證書ヲ授與ス

第三章 證書

第一節 證書ノ原本

第二十八條 公證人證書ヲ作ルニハ其囑託人ノ氏名ヲ知り面識アルヲ必要トシ且丁年者一名ノ立會人ヲ要ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス
公證人囑託人ノ人名ヲ知ラス面識ナキトキハ其本籍或ハ寄留地ノ郡區長若クハ戶長ノ證明書又ハ公證人氏名ヲ知り面識アル丁年者二人以上ヲ以テ其人ヲ證セシム可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第二十九條 左ニ掲クル者ハ立會人タルコトヲ得ス

第一 公證人及囑託人ノ親屬雇人又ハ公證人ノ筆生

第二 第二十條ニ掲ケタル者

第三十條 證書ニハ其本旨ノ外左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 囑託人及立會人ノ族籍住所職業氏名年齢

第二 囑託人代理人ナルトキハ委任狀ヲ持所シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

職業氏名年齢

第三 囑託人後見人ナルトキハ後見人タルノ證書ヲ所持シタルコト及其本人ノ族籍住所職業氏名年齢

第四 郡區長戶長ノ證明書ヲ以テ證シタルトキハ其旨又證人ヲ要シタルトキハ其族籍住所職業氏名年齢

第五 證書ヲ作リシ場所及其年月日若シ場所ヲ記セス又ハ年月日ノ記入ヲ遺脱シタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十一條 證書ヲ作ルニハ普通平易ノ語ヲ用ヒ字畫明瞭ナルヲ要ス

接續ス可キ字行ニ空白アルトキハ墨線ヲ以テ之ヲ接續ス可シ

數量並ニ年月日ヲ記スルニハ壹貳參肆伍陸柒捌玖拾陌阡萬ノ字ヲ用フ可シ

第三十二條 度量衡貨幣ノ數量名稱及曆法ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ記ス可シ

既ニ廢シタル度量衡貨幣曆法又ハ外國ノ度量衡貨幣曆法ヲ配セサルヲ得サル
場合ニ於テハ之ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 證書ニ追加改正ヲ爲ストキハ其文字并ニ何行ニ追加改正ヲ爲シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人并ニ關係人捺印ス可シ又文中消字ヲ爲ストキハ其原字ノ尙ホ明カニ讀得可キコトヲ要ス且何行ニ若干字ヲ消シタルコトヲ欄外又ハ末尾ノ餘白ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ追加改正消字ノ効ヲ有セス

第三十四條 證書ヲ作リタルトキハ關係人ニ讀聞セ其旨ヲ記入シ然ル後ニ公證人並ニ關係人各自署名捺印シ公證人ハ某治安裁判所管内某地住居ト肩書ス可シ

公證人並ニ關係人ノ署名捺印ナキトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス若シ署名スル能ハサル者アルトキハ明治十年第五十號ノ布告ニ從フ可シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十五條 證書ノ綴目合目ニハ公證人並ニ囑託人之ニ捺印ス可シ
第三十六條 公證人ハ自己及親屬ノ爲メニ證書ヲ作ルコトヲ得ス其親屬他人ノ代理人タルトキモ亦同シ之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十七條 公證人若シ囑託人ノ爲メ訴訟代人若クハ代言人ト爲リ又ハ爲リタルコトアルトキハ其訴訟事件ニ付キ證書ヲ作ルコトヲ得ス之ニ違ヒタルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第三十八條 公證人ハ自己親屬立會人又ハ證人ノ爲メニ利益アル條件ヲ證書中ニ記ス可カラス若シ之ヲ記シタルトキハ其條件ハ無効トス

第三十九條 公證人ハ證書ノ原本ヲ保存ス可シ若シ之ヲ保存セス又ハ亡失シタル場合ニ於テ第四十七條ノ手續ヲ爲サルトキハ其證書ハ公正ノ効ヲ有セス

第四十條 囑託人若シ代理人又ハ後見人ナルトキハ其委任狀又ハ其證書ノ寫ヲ原本ニ連綴ス可シ其寫ニハ本書ト對照シ相違ナキ旨ヲ附記シ公證人並ニ關係人署名捺印シ其寫ト本書トニ割印ス可シ

第四十一條 證書ニ關係ノ書類ハ之ヲ原本ニ連綴スルコトヲ得之ヲ連綴シタルトキハ其旨ヲ原本ノ欄外又ハ末尾ニ附記シ公證人並ニ關係人捺印ス可シ
第四十二條 原本ニハ證券印稅規則ニ定メタル印紙ヲ貼用ス可シ

第二節 正本及謄本
第四十三條 正本ハ數量ノ定リタル金錢其他換用物若クハ有價證券ノ支辨ニ限リ權利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ之ニ違ヒタルトキハ正本ノ効ヲ有セス

正式謄本及抄録正式謄本ハ権利者ノ請求ニ依リ之ヲ渡ス可シ

第四十四條 正本又ハ正式謄本ハ原本ト同時ニ又ハ原本ヲ作リタル後ニ於テ之ヲ作ルコトヲ得原本ト同時ニ作ルトキハ關係人ノ面前ニ於テシ原本ヲ作リタル後ニ作ルトキハ更ニ義務者ノ立會ヲ以テス可シ義務者出席セザルトキハ正本又ハ正式謄本ヲ求ムル者ヨリ管轄始審裁判所ニ出願シ其命令ニ依テ他ノ公證人一員又ハ裁判所ノ裁判官檢察官又ハ書記一員ノ立會ヲ以テ之ヲ作ル可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

裁判所ノ命令ニ依テ正本又ハ正式謄本ヲ作リタルトキハ其末尾并ニ原本ノ末尾ニ其旨ヲ附記シ其命令書ハ之ヲ原本ニ連綴ス可シ

第四十五條 正本又ハ正式謄本ヲ作ルトキハ第三十一條第三十三條第三十四條第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ

第三項及第三十五條ノ規定ニ依ル可シ
正本又ハ正式謄本ニハ権利者ノ氏名並ニ之ヲ作リタル年月日及場所ヲ記シ公證人並ニ義務者署名捺印ス可シ前條第一項ノ場合ニ於テハ公證人及他ノ公證人又ハ裁判所ノ官吏署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第四十六條 正本又ハ正式謄本ヲ渡シタルトキハ原本ノ末尾ニ其旨ト年月日トヲ附記シ權利者ヲシテ署名捺印セシム可シ

第四十七條 正本又ハ正式謄本ハ原本ノ亡失シタルトキ管轄始審裁判所ノ認可ヲ經之ヲ原本トシテ保存ス可シ

第四十八條 數事件ヲ列記シ數人各自ニ關係ヲ異ニスル證書ハ權利者ノ請求ニ依リ其有用ノ部分ヲ抄録シテ正本又ハ正式謄本ヲ作ルコトヲ得

正本又ハ正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡ス可カラス又抄録正本又ハ抄録正式謄本ヲ渡シタル者ニハ更ニ正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可カラス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

第四十九條 正本又ハ正式謄本ハ管轄始審裁判所ノ命令アルニ非サレハ再度之ヲ渡スコトヲ得ス之ヲ渡スト雖モ其効ヲ有セス

再度以上正本又ハ正式謄本ヲ得ント欲スル者ハ其事由ヲ具シテ管轄始審裁判所ニ願出ツ可シ管轄始審裁判所ハ原本ヲ保存スル公證人ニ其正本又ハ正式謄本ヲ渡ス可キコトヲ命スルコトアルヘシ

其正本又ハ正式謄本ニハ幾度ノ正本又ハ正式謄本ナルコトヲ末尾ニ附記シ公證人署名捺印ス可シ之ニ違ヒタルトキハ其効ヲ有セス

第五十條 抄録正本又ハ抄録正式謄本ハ總テ正本又ハ正式謄本ト同一ノ手續ニ依リ之ヲ作ル可シ其効力モ亦同シ

公證人

第五十一條 證書ノ謄本及其附屬書類ノ寫ハ關係人ノ求メニ應シ之ヲ渡ス可シ
第五十二條 謄本ニハ原本ノ全文ヲ寫シ其末尾ニ謄本ト記シ公證人署名捺印ス
可シ

第五十三條 抄録謄本ニハ原本ノ年月日及囑託人ノ族籍住所職業氏名ヲ記シ末
尾ニ抄録謄本ト記シ公證人署名捺印ス可シ

第五十四條 管轄始審裁判所ノ命令ニ依リ關係外ノ者ニ謄本ヲ渡シタルトキハ
其命令書ヲ原本ニ連續シ末尾ニ命令書ヲ受ケタル旨並ニ年月日ヲ附記シ受取
人ヲシテ署名捺印セシム可シ

第三節 見出張

第五十五條 公證人見出張ヲ作り記入前管轄始審裁判所ニ差出シ綴目合目ニ其
所長ノ官印ヲ受ク可シ

第五十六條 見出張ニハ日々取扱ヒタル書類中ヨリ第三十一條及第三十三條ノ
規定ニ從ヒ左ノ件々ヲ記入ス可シ

第一 囑託人ノ住所氏名

第二 書類ノ番號種類

第三 書類ヲ取扱ヒタル年月日

第四節 兼任及書類ノ授受

第五十七條 公證人死去失踪死職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シテ直ニ後任者ノ
命セラレサル場合又ハ停職ノ場合ニ於テハ管轄始審裁判所ハ近隣ノ公證人ニ
命シテ其事務ヲ兼任セシム可シ

役場ヲ廢シタルトキハ書類ノ引繼ヲ近隣ノ公證人ニ命ス可シ
第五十八條 前條ノ場合ニ於テ兼任者ナキトキ其他必要ト見認ムル場合ニ於テ

ハ管轄始審裁判所ハ直ニ其役場ノ書類ニ封印ヲ爲ス可シ
第五十九條 公證人免職辭職轉職又ハ他ノ役場ニ轉シタル場合ニ於テハ後任者
又ハ兼任者ハ前任者ト立會ヒ書類ノ提要目錄ヲ作り共ニ署名捺印シテ授受ス

可シ

死去失踪其他ノ事故ニ因リ引渡人ナキ場合ニ於テハ後任者又ハ兼任者ハ管轄
始審裁判所ノ官吏ト立會ヒ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

書類封印後ニ命セラレタル後任者又ハ兼任者ハ管轄始審裁判所ノ官吏ト立會
ヒ封印ヲ解キ提要目錄ヲ作り受取ル可シ

後任者又ハ兼任者ハ提要目錄ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其目錄ノ寫一通ヲ
管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

公證人

第六十條 公證人停職ノ場合ニ於テハ兼任者ハ第五十九條ノ手續ヲ爲スニ及ハス書類ノ保存ハ停職者之ヲ擔當ス可シ
兼任者ハ停職者ノ役場ニ於テ其職務ヲ行フ可シ

第六十一條 兼任者引繼ノ書類ヲ更ニ他ノ公證人ニ引渡ストキハ其命ヲ受ケタル日ヨリ三日以内ニ自己ノ引繼キタルトキノ目錄ニ依テ引渡ヲ爲シ其始末書ヲ作り受繼人ト共ニ署名捺印ス可シ
受繼人ハ始末書ヲ作りタル日ヨリ一月以内ニ其寫一通ヲ作り管轄始審裁判所ニ差出ス可シ

第六十二條 停職者復任スルトキハ管轄始審裁判所ヨリ兼任者ニ解任ヲ命ス可シ
第六十三條 前任者ノ作りタル原本ニ依テ後任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ其

受繼人タル旨ヲ附記ス可シ
本任者ノ作りタル原本ニ依テ兼任者正本又ハ謄本ヲ渡ストキハ兼任者タル旨ヲ附記ス可シ

第四章 手数料及旅費日當

第六十四條 公證人ハ此章ニ定メタル程限ニ從ヒ囑託人ヨリ手数料及旅費日當

ヲ受クルコトヲ得

第六十五條 手数料ハ原本一枚ニ付キ貳拾五錢正本及謄本ハ一枚ニ付キ拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ一枚トシ十行以上ハ一枚十行以下ハ半枚ヲ以テ算ス
第六十六條 囑託人ノ求メニ依リ先ツ證書ノ草案ヲ渡シ後其原本ヲ作りタルトキハ草案ノ手数料ヲ別ニ請求スルコトヲ得ス但其原本ヲ作ラサルトキハ原本

手数料ノ半額ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 公證人其役場ヨリ一里以外ノ地ニ往テ職務ヲ行フトキハ往返トモ旅費トシテ一里毎ニ貳拾錢ヲ受クルコトヲ得其職務ヲ行フ爲メ或ハ災變ノ爲メニ其場所又ハ途中ニ滞留スルトキハ日當七拾錢ヲ受クルコトヲ得

第六十八條 兼任者本任者ニ代リテ其職務ヲ行フトキハ其手数料ハ總テ兼任者之ヲ受ク可シ
第六十九條 手数料ノ外證券印紙並ニ郵紙ノ代價ハ囑託人ヨリ之ヲ受クルコト

ヲ得

第七十條 囑託人ノ求メアルトキハ手数料等ノ計算書ヲ與フ可シ
第七十一條 手数料等ニ係リ等ノ生シタルトキハ其金額ニ拘ハラヌ管轄始審裁判所ニ訴フ可シ

第五章 懲罰

第七十二條 公證人此規則ヲ犯シタル時ハ管轄始審裁判所ニ於テ第七十三條ヨリ第七十六條マテニ定メタル規定ニ依リ處分ス可シ

第七十三條 左ノ違犯ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ過料ニ處ス

第七十四條ニ違ヒタル時

第七十五條ニ違ヒタル時

第七十六條ニ違ヒタル時

第七十七條ノ第一第二第三第四ノ規定ニ違ヒタル時

第七十八條ノ第一第二項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十九條ノ第一項ニ違ヒタル時

第八十條ノ第一項ニ違ヒ讀聞セシコトヲ記入セス又ハ肩書ヲ爲サ、リ、時

第八十一條ニ違ヒタル時

第八十二條ニ違ヒタル時

第八十三條ニ違ヒタル時

第八十四條ノ第二項ニ違ヒタル時

第八十五條ニ違ヒタル時

第八十六條ニ違ヒタル時

第八十七條ニ違ヒタル時

第八十八條ニ違ヒタル時

第八十九條ニ違ヒタル時

第九十條ニ違ヒタル時

第九十一條ノ第四項ニ違ヒタル時

第九十二條ニ違ヒタル時

第九十三條ニ違ヒタル時

第七十四條 左ノ違犯ハ二圓以上五圓以下ノ過料ニ處ス

第七十五條ニ違ヒタル時

第七十六條ノ第一項ニ違ヒタル時

第七十七條ノ第二項ニ違ヒタル時

第七十八條ノ第二項ニ違ヒタル時

第七十九條ノ第一項又ハ第三項ニ違ヒタル時

第七十五條 左ノ違犯ハ五圓以上三十圓以下ノ過料ニ處ス

第七十六條ニ違ヒタル時

公證人

- 第七條ニ違ヒタル時
- 第十條ノ第二項ニ違ヒタル時
- 第二十八條ニ違ヒタル時
- 第三十條ノ第五ノ規定ニ違ヒタル時
- 第三十三條ニ違ヒタル時
- 第三十四條ノ第二項又第三項ニ違ヒタル時
- 第三十六條ニ違ヒタル時
- 第三十七條ニ違ヒタル時
- 第三十八條ニ違ヒタル時
- 第三十九條ニ違ヒタル時
- 第七十六條 左ノ違犯ハ一月以上四月以下ノ停職ニ處ス
 - 第四條ノ第一項ニ違ヒタル時
 - 第十五條ニ違ヒタル時
 - 第十六條ニ違ヒタル時
 - 第十七條ニ違ヒタル時
- 第七十七條 公證人前數條ニ掲ケタル懲罰處分ニ對シ不服アルトキハ管轄控訴

院ニ抗告スルコトヲ得但抗告ハ其處分ノ執行ヲ停止スルノ効力ナキモノトス

第七十八條 公證人停職ニ當ル所爲三度ニ及ヒタルトキハ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條ノ第一第二第三ニ記載シタル處分ヲ受ケ又ハ身許保證金ヲ差入レザルトキ亦前項ニ同シ

第七十九條 公證人此規則ヲ犯シタルニ依リ他人ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償ス可シ

○公證人規則施行條例(明治十九年八月司
法省令第二號)

今般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

公證人規則施行條例

- 第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス
 - 若シ公證人ノ員數不足スルハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルイアル可シ
- 第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ
 - 始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ可

法大臣ニ送達ス可シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス

第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受タル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルモ亦前條ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ
役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス
書類ハ常ニ書籍ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ
試験期日ノ告示アリタルヨリ試験期日一箇月前マテニ試験ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出ス可シ

試験願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戸長ノ奥書ヲ受ク可シ

第六條 試験ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條 試験委員ハ筆記試験ノ答接ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述
試験ヲ行フ可シ

筆記試験ニ合格セサル者ニ付テハ口述試験ヲ行ハス

第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判断ニ決スルモノトス

試験ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大畧及試験全體ノ結果ヲ記録ニ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ
試験ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者
ノ住所族籍氏名年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登録ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル始審裁判所
若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

始審裁判所ニ於テ試験ヲ行フタルハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書
類ニ意見ヲ附シテ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出
ス可シ

控訴院ニ於テ試験ヲ行フタルハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法
大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公證人ヲラント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官記學位記卒業證
書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證スル證書ヲ添ヘ之ヲ差出
ス可シ

試験及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ
第十三條 公證人願ヲ受マル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タル片ハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任スル片ハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ
東京及大坂 金五百圓
他ノ地方ニ於テハ 金四百圓

人口貳拾萬以上アル受持區 金三百圓

人口拾萬未滿アル受持區 金貳百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セス
第十九條 公證人ハ身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ス

公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサル片ハ公證人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス

第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタル片ハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命スヘシ

公證人保證金ヲ補充スルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサル片ハ始審裁判所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

公證人

第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷タルハ身元保證金ヲ還付ス可シ

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルハ管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルハモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院ハ其旨ヲ公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ

第一 公證人試驗願書書式

公證人試驗願 (料紙美濃紙)

族籍 戶主嗣子又ハ二
三男兄弟ノ別

氏

名

年 齡

私儀公證人試驗相受度此段奉願候也

年月日

現住所

氏

名 印

某控訴院長誰殿又ハ某始審裁判所長誰殿

前書ノ通族籍年齢等相違無之候也

年月日

本籍

區長又ハ戶長 印

第二 履歷書式

履歷書 (料紙美濃紙)

族籍

氏

名

年 齡

一 何年何月ヨリ何年何月迄何府縣何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業

一 何年何月何日 職業仕官池退賃罰等ニ關スル一切ノ件

一 公證人規則第二十條ノ各項ニ相觸レ候儀一切無之候

年月日

氏

名 印

前書之通相違無之候也

公證人

年月日

本籍

三六

第三 公證人願書式

公證人願(料紙美濃紙)

區長又ハ戸長[㊦]

族籍 戸主嗣子又ハ二

氏

名

年 齡

私儀何縣何國某治安裁判所管下公證人受持區ニ於テ公證人ノ職務ヲ行度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第證書(官記學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

年月日

現住所

氏

名[㊦]

司法大臣謹啟

又

私儀何縣何國某治安裁判所管下及ヒ何縣何國治安裁判所管下(某始審裁判所管下又ハ某控訴院管下)ノ内何レノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之候ニ付御登用被下度試験及第證書(官記學位記

卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證相添此段奉願候也

前後ノ式ハ前式ニ同シ

○行政官

○文官試験試補及見習規則(明治三十年七月勅令第三十七號)

朕文官試験試補及見習規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文官試験試補及見習規則

第一 通則

第一條 本令ニ於テ文官ト稱スルハ奏任判任ノ文官ヲ總稱シ試補ト稱スルハ勅令第十三號學位令ニ依リ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケ又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ヲ卒業シ又ハ高等試験ヲ經當選シテ高等官ノ實務ヲ練習スル者ヲ云ヒ見習トハ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ヲ經當選シテ判任官ノ事務ヲ練習スル者ヲ云フ
本令ニ於テ司法官ト稱スルハ裁判官及檢察官ヲ總稱ス

第二條 第三條第四條ニ掲クルモノヲ除クノ外本令ニ依リ定規ノ試験ヲ經當選

行政官

三七

シタル者ニアラサレハ試補及見習ニ任命スルコトヲ得ス又實務練習ヲ終リタル者ニアラサレハ本官ニ任スルコトヲ得ス

第三條 三年以上分科大學ノ教授ニ任シタル者ハ高等試験及實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任シ法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊東京大學法學部文學部ノ卒業生ハ高等試験ヲ要セス試補ニ任スルコトヲ得

司法官タルノ資格ヲ有スル者ニシテ他官ヨリ司法官ニ轉スルトキ又ハ司法官タルノ資格ヲ有シ三年以上代言人タル者ハ實務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第四條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校及司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者ハ普通試験ヲ要セス判任官見習ヲ命スルコトヲ得

第五條 試験ヲ分テ高等試験普通試験ノ二種トス
高等試験ハ試補ニ任用セラレンコトヲ望ム者ノ爲ニシ普通試験ハ判任官見習ニ任用セラレンコトヲ望ム者ノ爲ニス

第六條 試験ハ筆記口述ノ二様トス筆記試験ニ落第シタル者ハ口述試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 試験ハ筆記口述ノ二様ニ就キ各科目ノ點數ヲ合算シタル一定ノ平均點數ヲ以テ合格ヲ定メ時々官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ合格者中ヨリ選抜シテ當選者ヲ定ム但一科目ニ付一モ點數ナキ者ハ合格者トスルコトヲ得ス

第八條 前條ノ選抜ニ當ラサル者ハ合格者ト雖モ再ヒ文官ノ任用ヲ望ムトキハ更ニ本令ニ依リ試験ヲ受クヘシ
第九條 試験ニ必要ノ參考書類及紙墨ハ試験室ニ備ヘ置キ受験人之ヲ携帯スルコトヲ許サス

第十條 試験當選者ノ姓名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
第十一條 第九條ヲ犯シ若クハ不正ノ方法ヲ以テ當選シ他日其事ノ發覺シタルトキハ當選ノ効ナキモノトス

第十二條 第九條ヲ犯シタル者及第十一條ノ處分ヲ受ケ又ハ不正ノ方法ヲ以テ當選セント企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス
第十三條 第十八條第二十三條第三十三條第三十六條ノ履歷書中事實ヲ隱匿シ又ハ之ヲ偽リタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第十四條 試験ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 本令施行ノ後五箇年間に事務練習中ト雖モ本官ノ缺アルトキハ其練習ノ満期ヲ待テシテ本官ニ任スルコトアルヘシ
五箇年以上奏任官ヲ勤メタル者ニシテ高等試験ヲ經營選シタル者ハ事務練習ヲ要セス直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第二 高等試験

第十六條 高等試験ハ各官廳ノ須要ニ從ヒ時々東京ニ於テ試験委員之ヲ行フ其期日及場所ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十七條 高等試験ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 丁年以上ノ男子
- 一 外國ニ於テ大學校又ハ之ト同等ナル學校ノ卒業證書ヲ有シ又ハ三年以上其學科ヲ修學シタル旨證明スル證書ヲ有スル者
- 一 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學政治學又ハ理財學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 高等中學校及東京商業學校ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 五箇年以上奏任官ヲ勤メタル者

第十八條 試験願書ハ其時々官報ヲ以テ公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添之ヲ

試験委員長ニ差出スヘシ

一 出願者ノ履歴書

一 第十七條ニ掲クル卒業證書及修學證書ノ寫

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第十九條 高等試験ノ科目ハ試験ヲ行フ年毎ニ司法官又ハ行政官ノ別ニ依リ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ文官試験局長官之ヲ撰定シ試験ノ期日三箇月前ニ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第二十條 第三條第四條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外教官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スルモノハ別段ノ試験法ヲ定ムルマテ各官廳ノ需要ニ從ヒ試験ヲ經スシテ之ヲ任用スルコトヲ得

第三 試補

第二十一條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ定限ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習スヘシ

第二十二條 各官廳試補ノ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第二十三條 法學博士文學博士ノ學位ヲ受ケタル者又ハ法科大學文科大學及舊

東京大學法學部文學部ノ卒業生ニシテ行政官又ハ司法官ノ試補マラシムコトヲ望ム者ハ左ノ書類ヲ取添其旨ヲ文官試験局長官ニ出願スヘシ(明治二十一年勅令第九十八號ヲ以テ取添ノ下高等試験期日三十日前ニノ十一字ヲ削ル)

- 一 出願者ノ履歷書
- 一 學位又ハ卒業證書ノ寫
- 一 身分年齡

第二十四條 行政官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ地方官廳一箇年半ハ中央官廳ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十五條 司法官ノ試補ハ便宜ニ從ヒ少クモ一箇年半ハ治安裁判所一箇年半ハ始審裁判所ニ於テ其事務ヲ練習スヘシ

第二十六條 試補ハ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習スルニ付テハ其主務長官ノ指揮監督ヲ受クヘシ

第二十七條 主務長官ハ事務練習ノ終ニ於テ試補練習ノ功程ヲ所屬大臣ニ具狀シ其意見ヲ提出スヘシ

第二十八條 所屬大臣ハ練習期限中ト雖モ試補官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタルモノト認ムルトキハ試補ヲ免スヘシ

第二十九條 在職ノ判任官ニシテ高等試験ヲ經營選シタル者ハ事務練習ヲ受セス缺員アル場合ニ於テハ直ニ本官ニ任スルコトヲ得

第三十條 試補ノ命ヲ承ケ所屬大臣ノ指命スル所ニ就キ事務ヲ練習セサル者ハ試補ヲ免スヘシ

第四 普通試験

第三十一條 中央官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ普通試験委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々其官廳ヨリ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十二條 地方官廳ニ於テ要スル判任官ノ普通試験ハ各官廳ノ需ニ應シ府縣ノ普通試験委員之ヲ行フ其期日場所ハ時々普通試験委員長ヨリ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十三條 試験願書ハ本人自ラ之ヲ認メ其時々公告スル期日前ニ左ノ證書ヲ取添之ヲ普通試験委員長ニ差出スヘシ

- 一 出願者ノ履歷書
- 一 身分職業年齡及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第三十四條 普通試験ノ科目ハ各官廳所掌ノ事務ヲ斟酌シテ普通試験委員之ヲ選定シ文官試験局長官ノ認可ヲ經テ試験ノ期日一箇月前ニ官報又ハ其他ノ方

法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五 判任官見習

第三十五條 各官廳ハ其需要ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ及普通試験ニ及第シタル者ニ判任官見習ヲ命スヘシ

判任官見習ヲ命セラレタル者ハ所屬長官ノ指命スル所ニ就キ二箇年ヨリ短カラサル期限間事務ヲ練習シ判任官ノ缺員ヲ待テ本官ニ任セララルヘシ

第三十六條 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校及帝國大學ノ監督ヲ受クル私立法學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有シ判任官見習ヲ命スルコトヲ望ム者ハ左ノ書類ヲ添ヘ主務官廳ニ出願スヘシ
(明治二十一年勅令九十八號ヲ以テ望ム者ハノ下普通試験期日三十日前ニノ十二字ヲ削除ス)

一 出願者ノ履歴書

一 卒業證書ノ寫

一 身分職業年齢及兵役ニ關スル區戸長ノ證書

第三十七條 所屬長官ハ判任官見習官吏ニ必要ナル品位ヲ失ヒタル者ト認ムルトキハ判任官見習ヲ免スルコトヲ得

第三十八條 本令施行ノ前二箇年以上各官廳ニ於テ雇員トナリタル者ニシテ事務ニ熟練シタル者ト本屬長官ニ於テ認ムルトキハ試験ヲ要セス直ニ判任官ニ任スルコトヲ得

第三十九條 本令ハ明治二十一年一月ヨリ施行ス

○文官試験ニ關スル件(明治三十三年二月勅令第八號)

朕文官試験ノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

第一條 前ニ奏任文官ヲ勤メタル者及滿三年以上判任文官ヲ勤績シタル者ハ明治二十年勅令第三十七號ニ依リ高等試験ヲ受クルコトヲ得

第二條 明治二十年勅令第三十七號ニ依リ高等試験ヲ受ケテ合格シタル者ハ文官試験局官長ヨリ高等試験合格證書ヲ付與スヘシ

高等試験合格證書ヲ得タル者ハ官廳ノ需要アルニ當リ高等官試補ニ任スルコトヲ得

第三條 滿三年以上奏任文官ヲ勤メ退官シタル者及滿五年以上判任文官ヲ勤メ退官シタル者ハ試験及ヒ事務練習ヲ要セスシテ前官同等若クハ其ノ以下ノ文官ニ任スルコトヲ得

行政官

第四條 奏任又ハ判任ノ文官ヨリ轉任シタル官立學校ノ教官及府縣立學校ノ職員ハ更ニ前官同等若ハ其ノ以下ノ文官ニ轉任スルコトヲ得

第五條 各官廳ハ其ノ需用ニ從ヒ官立府縣立中學校又ハ此ト同等ナル官立府縣立學校及特別認可學校又ハ司法省舊法學校ノ卒業證書ヲ有スル者又ハ明治二十年勅令第三十七號ニ依リ普通試験ニ及第シタル者ヲ擧ケテ直チニ判任文官ニ任スルコトヲ得

第六條 試験ハ本邦ノ成法慣例及一般ノ學理ヲ以テ問題ト爲スヘシ但シ受験者應答ヲ爲スニ當リ外國ノ法例ヲ參照ニ引擧スルコトヲ得

特別ノ必要ニ依リ外國語ヲ試験問題ト爲スハ前項ノ限ニ在ラス

第七條 本令ハ明治二十年勅令第三十七號第二十條ニ依リ試験ヲ經スシテ任官シタル者並ニ明治二十一年以後郡區長ノ試験ニ及第シテ任官シタル者ニ適用セス

○文官試験試補及見習ニ關スル細則(明治廿年七月 勅令第十八號)

勅令第三十七號文官試験試補及見習規則ニ依リ細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

文官試験試補及見習規則ニ關スル細則

第一條 高等試験ハ左ノ科目中司法官ハ五科目以上行政官ハ三科目以上ヲ以テ試験ヲ行フノ定限トシ試験ノ期日及場所ト共ニ三箇月以前ニ文官試験局長官

官報ヲ以之ヲ公告ス(明治廿二年勅令第廿一號ヲ以テ本條第二項ヲ刪除ス)

一 民法

二 訴訟法

三 刑法

四 治罪法

五 商法

六 憲法

七 行政

八 財政

九 理財

十 國際法

第二條 前條ノ科目中本邦ニ成典アルモノヲ除クノ外ハ受験人ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル外國ノ書籍ニ依リ試験ヲ受クルコトヲ得

第三條 高等試験ハ國語及漢字交リノ文ヲ以テ之ヲ行フ特ニ外國語及外國文ヲ

行政官

以テ試験ヲ受ケンコトヲ願フ者ハ豫メ文官試験局長官ノ許可ヲ受クヘシ
第四條 勅令第三十七號文官試験試験補及見習規則第三條ノ資格ヲ具スル者ヲ除クノ外教官技術官其他特別ノ學術技藝ヲ要スル者ノ試験ヲ爲ストキハ其試験ノ科目ハ試験ノ期日及場所ト共ニ三箇月以前ニ文官試験局長官官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第五條 高等試験ハ勅委任官ニシテ文官試験局長官ノ許可ヲ得タル者ノ外傍聴ヲ許サス

第六條 筆記試験ハ受験人總員ヲ一室又ハ數室内ニ閉鎖シ一室毎ニ試験委員一名監視シテ之ヲ行フヘシ但受験人一名ナルトキハ試験委員二名監視スルヲ要ス

第七條 筆記試験ノ問題ハ試験局長官定ムル所ノ方法ニ依リ各受験人ヲシテ之ヲ知悉セシメ豫定ノ時間内ニ答辯書差出サシムヘシ

第八條 筆記試験問題ノ數ハ各科目ニ付試験委員ノ議定シタル所ニ依ル

第九條 試験室ニ備ヘ置クヘキ必要ノ参考書類ハ法律類集官報其他公然ノ法章ニ限ル

第十條 口述試験ハ筆記試験ヲ終リタル後試験委員長ノ上席ヲ以テ試験委員總

員ノ列席ニ於テ受験人一名毎ニ試問シテ即時答辯ヲ爲サシムヘシ

第十一條 口述試験ハ各受験人ニ付半時間以上一時間以内トス

第十二條 高等試験ハ受験人ノ果シテ學理上ノ原則ニ通曉スルヤ現行ノ法律命令ヲ解得スルヤ又法律命令ヲ實務ニ應用シ及之ヲ口述スルニ確實敏捷ナルヤ否ヤヲ試験スルヲ以テ目的トスヘシ

第十三條 高等試験ヲ經タル各科目ノ點數及其全體ノ效果ニ關シ合格者ヲ定ムルハ試験委員ノ議定シタル平均點數ニ依ル

第十四條 當選者ハ各合格者ニ就キ試験委員長ノ具狀スル所ニ依リ各官廳ノ需要ニ應シ人員ヲ限リ内閣ニ於テ之ヲ定ム

第十五條 前條ノ合格者中ヨリ當選者ヲ査定スルハ其試験ヲ行ヒタル日ヨリ四週間以内ニ之ヲ結了シ官報ヲ以テ其姓名ヲ公告スヘシ

第十六條 試験委員長ハ試験委員ノ職務ニ屬スル議決ノ數ニ入ラス若シ其議決ニ關シ試験委員ノ説可否相半スルハ試験委員長ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 受験人ハ其試験ヲ受クルノ際試験手續ニ關スル規則及試験委員ノ命令ヲ遵守スヘシ犯ス者ハ監視ノ試験委員ニ於テ退室ヲ命シタル後之ヲ試験委員長ニ報告シ其試験ヲ拒ムコトヲ得

第十八條 高等試験ノ手續ニ關スル細目ハ文官試験局長官ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 普通試験ニ關スル細則ハ文官試験局長官ノ認可ヲ經各官廳ノ普通試験委員ノ定ムル所ニ依ル

○高等試験手續(明治二十年十二月二十六日文官試
驗局長官明治三十一年一月四日官報)

高等試験手續左ノ通相定

高等試験手續

第一條 文官試験試補及見習規則第十八條ノ試験願書ハ書式ニ從ヒ試験期日二十日前迄ニ差出スヘシ其履歷書ニハ生年月住所ノ移動學事及職業ノ經歷賞罰身代限ノ有無等ヲ詳記シ品行ニ關スル證書アラハ其寫ヲ添ヘシ

第二條 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ノ卒業證書ヲ有シ又ハ三年以上其學科ヲ修メタル旨ヲ證明スル書類ヲ有スル者ハ内國若クハ外國ニ於テ修メタル大學豫備ノ學科又ハ其他特ニ修メタル學科アルトキハ之ヲ履歷書中ニ詳記シ證書アラハ其寫ヲ添ヘシ

第三條 高等中學校及高等商業學校(舊東京商業學校)ノ卒業證書ヲ有スル者別ニ法律政治又ハ理財ノ學科ヲ修メタルトキハ之ヲ履歷書中ニ詳記シ證書アラハ其寫ヲ添ヘシ

其寫ヲ添ヘシ

第四條 五箇年以上委任官ヲ勤メタル者法律政治又ハ理財ノ學科及之ニ要スル豫備ノ學科ヲ修メタルトキハ之ヲ履歷書中ニ詳記シ證書アラハ其寫ヲ添ヘシ

第五條 兵役ニ關スル區戸長ノ證書ハ免役及猶豫ヲ證明シタル者タルヘシ

第六條 試験出願者文官試験局ニ於テ定メタル日時ニ出席セサルトキハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 受験人多クシテ同日ニ試験ヲ施行スル能ハサルトキハ試験委員ニ於テ試験期日ヲ異ニスルコトヲ得ヘシ

第八條 高等試験ノ科目ハ文官試験局長官各官廳ノ須要ニ從ヒ所定ノ科目中ヨリ之ヲ定メテ公告スルモノトス

第九條 試験委員ハ受持試験ノ三日前ニ筆記試験問題ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

第十條 試験ハ午前九時ニ始リ正午ニ終ル試験室ハ九時十分前ニ開キ九時ニ閉ツルモノトス但口述試験ハ午後ニ亘ルコトアルヘシ

第十一條 文官試験局ハ受験人名簿ヲ調製シ各受験人ノ番號ヲ定メテ記入シ之ヲ受験人ニ通知スルモノトス

第十二條 試験委員ハ筆記試験ノ終リタル後二週間以内ニ答辯書ヲ添ヘテ試験成績ノ報告ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

第十三條 試験委員ハ口述試験ヲ終リタル後三日以内ニ試験成績ノ報告ヲ試験委員長ニ差出スヘシ

第十四條 各科目ノ點數ハ一百ヲ以テ滿點トシ各科目ノ點數ヲ通計シ得ル所ノ和ヲ科目ノ數ヲ以テ除シ得タルモノヲ平均點數トス平均點數ハ六十點ヲ以テ最下限トス但一科目ノ點數五十ニ達セサル者ハ合格者トスルコトヲ得ス

第十五條 高等試験ハ通常毎年十月ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

第十六條 受験人ハ試験時間中退室スルコトヲ得ス退室シタルトキハ當期ノ試験ヲ受クルヲ得サルモノトス

第十七條 受験人ハ室内ニ在リテ靜肅ヲ旨トシ舉措進退總テ試験委員ノ指揮ニ遵フヘシ

第十八條 受験人ハ試験問題ニ就キ試験委員ニ質問スルコトヲ得ス

第十九條 受験人ハ午前八時三十分マテニ受験人控所ニ參集シ當日ノ試験ヲ了リタル後ハ直ニ退出スヘシ

第二十條 答辯書ハ其主意ヲ明瞭ニ記載シ文字ハ楷書若クハ行書ニテ分明ニ記

スヘシ

第二十一條 受験人ハ試験答辯書ニ豫定ノ番號ヲ記スヘシ其姓名ヲ掲クルコトヲ得ス

第二十二條 受験人ハ書類ヲ携帶シテ室内ニ入ルコトヲ得ス

(書式畧之)

○判任官高等試験ヲ受クル者(明治二十年十二月勅令第六十四號)

朕判任官高等試験ヲ受クルコトヲ得ルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

本年七月勅令第三十七號文官試験試補及見習規則施行ノ後五箇年間ハ五箇年以上官務ニ従事シ判任官五等以上ニ叙セラレタル者ハ同則第十七條第五項ニ準シ高等試験ヲ受クルコトヲ得其當選シタル者ノ本官ニ任スルハ同則第二十九條ニ據ル

○郡區長ハ當分内務大臣ノ指定科目ニ依リ試験ス(明治二十年七月勅令第二十號)

地方現今ノ情況ニ依リ郡區長ノ試験ハ學術ニ偏セス實務ヲ旨トシテ專ラ其地ノ狀勢民情及利害ニ通曉スル者ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ郡區長ノ試験科目ハ

行政官

當分ノ内地方ノ實況ヲ斟酌シテ内務大臣ノ指定スル所ニ依ル
但郡區長ハ高等試験ヲ經タル者ニ非レハ他ノ高等官ニ轉スルコトヲ得ス

○郡區長試験條規(明治二十年十二月
内務省令第五號)

郡區長ノ試験ニ關シ左ノ條規ヲ定ム

第一條 郡區長ノ試験ハ左ノ科目ヲ以テ内務省ニ於テ之ヲ行フ

一 就職スヘキ地方ノ風土慣例及物産

一 郡區長職ニ必要ナル法令

一 郡區長職務ニ關スル公文ノ立案

第二條 郡區長ノ試験ヲ受クルハ滿三十年以上ノ者タルヘシ但該地方ニ於テ五
箇年以上奏任官又ハ郡區長ノ職ヲ奉ジタル者ハ此限ニアラス

第三條 試験出願者ハ願書ニ就職スヘキ地名ヲ記入シ履歷書ヲ取添ヘ北海道廳
又ハ府縣廳ヲ經テ試験委員長ニ差出スヘシ

第四條 試験委員ハ内務大臣内務省ノ高等官若クハ他官廳ノ高等官ヨリ選テ之
ヲ命シ又ハ囑託シ内務省總務局長ヲ以テ委員長トス

第五條 試験委員ハ必要アル場合ニ於テハ問題ヲ選定シテ北海道廳長官府縣知

事ニ送付シ該地方高等官三名以上ノ列席ニ於テ其應答ヲ爲サシムルコトヲ得
第六條 試験ノ手續ニ關スル細目ハ試験委員長ノ定ムル所ニ依ル

○司法官

○判事檢事登用試験規則(明治二十四年五月
司法省令第三號)

判事檢事登用試験規則左ノ通り相定ム

判事檢事登用試験規則

第一章 試験委員

第一條 判事檢事登用試験委員ハ委員長一名委員數名ヲ以テ之ヲ組織ス

第二條 判事檢事登用試験委員長及委員ハ大審院控訴院ノ判事檢事司法省高等
官ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス

第三條 判事檢事登用試験委員長ハ委員ヲ監督シ試験ニ關スル一切ノ事務ヲ總
理ス

第四條 試験委員附屬ノ書記ハ司法屬又ハ裁判所書記ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司
法大臣之ヲ命ス

第二章 受験資格

行政官

第五條 判事檢事登用試験ヲ受クルコトヲ得ル者ハ成年以上ノ男子ニシテ左ノ各項ノ一ニ該ル者ニ限ル

一 第一及第三高等中學ニ於テ法科ヲ卒業シタル者

二 文部大臣ノ認可ヲ經タル學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

三 外國ノ大學校又ハ之ト同等ナル學校ニ於テ法律學ヲ修メ卒業證書ヲ有スル者

第六條 裁判所構成法第六十六條ニ該ル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三章 第一回試験

第七條 第一回試験ハ司法省ニ於テ之ヲ行フ試験ノ期日ハ試験委員長之ヲ定メ官報ヲ以テ公告ス

第八條 試験志願者ハ其志願書ニ左ノ證書ヲ添ヘ之ヲ試験委員長ニ差出スヘシ
一 履歷書

二 身分年齢徵兵役ニ關スル證明書

三 第五條ニ定メタル要件ノ證明書

第九條 試験ハ受験者ノ學識ヲ試験スルヲ以テ目的トシ筆記口述ノ二様トス

第十條 筆記試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ各法ニ就キ之ヲ施行ス

第十一條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認メタルトキハ口述試験ノ爲メ志願者ヲ呼出スヘシ

第十二條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

第十三條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對スル委員過半数ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十四條 志願者口述試験ニ闕席シタルトキハ試験ハ成立メサルモノトス

第十五條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第十六條 帝國大學法律科卒業生ニシテ司法官ノ任用ヲ望ム者ハ第八條ノ規程ヲ準用シ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第四章 實地修習

第十七條 試験ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ一名若ハ數名ノ判事又ハ檢事ニ附屬シテ事務ヲ修習スヘシ

司法官

第十八條 修習事務直接ノ指揮監督ハ地方裁判所長之ヲ爲ス檢事ノ事務ヲ修習スルトキハ檢事正之ヲ爲ス

裁判所長若ハ檢事正ハ毎年未ニ試補ノ職務上及職務外ノ行狀並執務ニ關ル成績ノ證明書ヲ作り控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十九條 試補ハ修習目録ヲ作り其取扱ヒタル事件ヲ記載スヘシ此目録ハ毎月直接指揮監督者ニ差出シ檢閲ヲ受クヘシ

第二十條 試補ノ疾病又ハ兵役履行ノ爲メ修習ヲ缺キタル日數一箇年間二箇月以内ハ修習日數ニ算入ス

賜暇其他ノ原因ニ由リ修習ヲ缺キタル日數一箇年間一箇月以内亦同シ

第二十一條 試補ノ直接指揮監督者ハ試補職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其身分ニ適セサル行狀アルトキハ之ヲ諭告スヘシ此場合ニ於テハ指揮監督者ハ諭告ヲ爲シタルコトヲ試補ノ履歴ニ記入スヘシ

第二十二條 試補職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナルカ又ハ其修習ノ進歩不十分ニシテ第二回試験ニ及第ノ見込ナキトキハ直接指揮監督者

ハ控訴院長檢事長ヲ經由シテ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ試補ヲ免スルコトアルヘシ

第五章 第二回試験

第二十三條 第二回試験ハ控訴院ニ於テ之ヲ行フ試験ノ場所ハ司法大臣之ヲ定メ試験ノ期日ハ試験委員長之ヲ定ム

第二十四條 試補第二回試験ヲ受クルニハ直接指揮監督者ヲ經由シテ志願書ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

志願書ニハ修習目録ト陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコトヲ證明スル書面トヲ添フヘシ

第二十五條 司法大臣ハ第二回試験ヲ受クヘキ試補ノ氏名ヲ試験委員長ニ通知シ試験ヲ行ハシム

第二十六條 第二回試験ハ受験者ノ實務ニ習熟シタルヤ否ヲ試験スルヲ以テ主タル目的トシ筆記口述ノ二様トス

第二十七條 試験委員ハ試補ニ筆記試験ノ爲メ二件以上ノ訴訟記録ヲ付與スヘシ

第二十八條 受験者ハ付與セラレタル訴訟記録ニ就キ事實及理由ヲ詳示シタル

判決案ヲ答案トシテ差出スヘシ

答案ハ二十日ノ期間内ニ之ヲ差出スヘシ若シ此期間内ニ答案ヲ差出サル、トキハ試験ハ成立メサルモノトス

第二十九條 口述試験ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法ノ中少クトモ三科目ニ就キ之ヲ施行ス

又訴訟記録ニ就キ問ヲ發シ之ニ答ヘシムヘシ其記録ハ試験期日ノ三日前ニ之ヲ付與ス

第三十條 左ノ場合ニ於テハ司法大臣ハ試験委員長ノ報告ニ因リ試補ヲ免ス

一 第二回試験ニ及第セサルトキ

二 第二回試験ノ成立メサルトキ

第三十一條 前條第二ノ場合ニ於テ試補已ムヲ得サル事故アリシコトヲ證明シ

試験委員之ヲ正當ト認メタルトキハ其旨ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

司法大臣前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ其試補ニ一回ヲ限リ次期ノ試験マテ引

續キ修習ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第三十二條 第一回試験ニ關ル第十一條及第十三條乃至第十五條ノ規程ハ第二

回試験ニモ亦之ヲ適用ス

○裁判所書記

○裁判所書記登用試験規則(明治二十四年五月 司法省令第四號)

裁判所書記登用試験規則左ノ通相定ム

裁判所書記登用試験規則

第一章 試験

第一條 裁判所書記登用試験ハ文官試験ニ關ル勅令ノ外本則ノ規程ニ從フ

第二條 試験ハ各控訴院ニ於テ之ヲ行フ

第三條 試験委員ハ控訴院判事檢事書記長又ハ其管内地方裁判所ノ判事檢事ノ

中ヨリ司法大臣之ヲ命ス

試験委員長ハ委員中官等最モ高キ者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 試験ハ作文筆記書取算術簿記ノ外民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法

ノ中ニ就キ之ヲ施行ス

第五條 試験委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ地方裁判所ニ於テ筆記試験ヲ受

ケシムルコトヲ得此場合ニ於テ試験問題ノ答案ハ其裁判所ノ官吏監督シテ之

ヲ作ラシム

第六條 試験委員筆記答案ヲ調査シタル後口述試験ヲ爲スニ足ルヘキモノト認
メタルトキハ口述試験ノ爲メ受験者ヲ呼出スヘシ

第七條 受験者口述試験ニ闕席シタルトキハ試験ノ成立タサルモノトス

第八條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員長及試験委員ノ述書シタル及第證書
ヲ授與ス

第九條 試験委員長ハ及第者ノ氏名其試験ノ成績ヲ司法大臣ニ報告スヘシ

第二章 實地修習

第十條 試験ニ及第シタル者ハ裁判所書記見習ヲ命セラル、コトヲ得

裁判所書記見習ハ區裁判所及地方裁判所並其檢事局ニ於テ實地修習ヲ爲スヘシ

第十一條 實地修習ノ順序ハ控訴院長檢事長協議シテ之ヲ定ム

第十二條 實地修習ノ指揮監督ハ地方裁判所長若ハ檢事正又ハ區裁判所ノ一人
ノ判事若ハ監督判事若ハ檢事之ヲ爲ス

指揮監督者ハ修習ノ事務ヲ直接ニ指示スヘキ官吏ヲ定ムヘシ

第十三條 裁判所書記見習職務上ノ義務ヲ怠リ又ハ職務上若ハ職務外ニ於テ其
身分ニ適セサル行狀アルトキハ指揮監督者之ヲ諭告スヘシ

第十四條 裁判所書記見習職務上若ハ職務外ノ行狀其職務ヲ執ルニ不適當ナル

カ又ハ其修習ノ進歩不十分ナリト認ムルトキハ指揮監督者ハ控訴院長檢事長
ニ之ヲ報告スヘシ

第十五條 指揮監督者ハ裁判所書記見習其指揮監督ニ係ル修習ヲ終リタル修習

ニ關ル證明書ヲ作り修習ノ成績並職務上及職務外ノ行狀ヲ記載シテ之ヲ控訴

院長檢事長ニ差出スヘシ

若シ行狀ニ就キ諭告シタルコトアルトキハ其旨ヲ證明書ニ附記スヘシ

控訴院長檢事長ハ證明書ニ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出スヘシ

第十六條 本章ノ規程ハ試験ヲ經スシテ裁判所書記見習トナリタル者ノ實地修
習ニモ亦之ヲ適用ス

○執達吏

○執達吏登用規則(明治二十三年八月
司法省令第二號)

明治二十三年二月法律第六號裁判所構成法第九十五條及第九十九條ニ依リ執達吏
登用規則左ノ通り相定ム

執達吏登用規則

第一條 執達吏ニ任セラル、ニハ左ノ諸件ヲ具備スルコトヲ要ス

執達吏

- 第一 年齢満二十五歳以上ナルコト
- 第二 陸海軍ノ現役ヲ終ヘ又ハ之ヲ免セラレタルコト
- 第三 身體健全ナルコト
- 第四 家計ノ整理シタルコト
- 第五 品行方正ナルコト
- 第六 試験ニ及第シタルコト
- 第二條 左ニ掲クル者ハ執達吏ニ任セラル、コトヲ得ス
- 第一 重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタ者ハ此限ニ非ス
- 第二 定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
- 第三 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免カレサル者
- 第四 懲戒ノ處分ニ由リ免職セラレタル者
- 第三條 執達吏ノ試験ヲ受ケントスル者ハ少クトモ六箇月間區裁判所ニ於テ主トシテ執達吏ノ職務ヲ修習シ傍ラ書記ノ職務ヲ修習スルコトヲ要ス職務ノ修習ヲ爲ス者ハ職務上ノ秘密ヲ漏洩スヘカラス
- 第四條 職務修習ヲ願フニハ願書ニ兵役ニ關ル證書及履歷書ヲ添付シ之ヲ控訴院長ニ差出シ其許可ヲ受クヘシ

- 第五條 職務修習ノ許可ヲ爲シタルトキハ控訴院長ハ修習者ノ屬スヘキ區裁判所ヲ指定スヘシ
- 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ授業ヲ擔當スヘキ執達吏及裁判所書記ヲ選定シ職務ノ訓導ヲ爲サシムヘシ
- 第六條 控訴院長ハ修習者ノ行狀執達吏トナルニ不適當ナリト認ムルトキハ其修習ヲ止ムルコトヲ得
- 第七條 職務修習者試験ヲ受ケントスルニハ第一條ノ一乃至第五ノ諸件ヲ具備シタルコト及第二條ノ諸件ニレ觸サルコトヲ證明シ並修習ノ日數ヲ記入シタル願書ヲ區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ヲ經由シテ控訴院長ニ差出スヘシ
- 區裁判所ノ一人ノ判事若ハ監督判事ハ前項ノ願書ニ意見ヲ付スヘシ
- 控訴院長ハ書類ヲ調査シ試験ノ許否ヲ定ムヘシ
- 第八條 試験ハ地方裁判所ニ於テ毎年一回之ヲ行フ
- 第九條 試験委員長及試験委員ハ地方裁判所ノ判事檢事ノ中ヨリ試験舉行毎ニ司法大臣之ヲ命ス
- 第十條 控訴院長ハ試験ヲ受クヘキ修習者ノ名簿ヲ試験委員長ニ送付スヘシ

前項ノ送付アリタルトキハ試験委員長ハ試験期日ヲ定メ之ヲ修習者ニ告知ス
ヘシ

第十一條 試験ハ筆記口述ノ二様トス

口述試験ハ筆記試験ニ及第シタル者ニ之ヲ行フ

第十二條 試験ハ左ノ科目ニ就キ之ヲ行フ

第一 民事訴訟法及治罪法ノ中書類送達及執行ニ關ル規程

第二 執達吏ニ關ル諸規則

第三 算術(加減乗除分數比例)

第四 讀書筆寫

第十三條 筆記試験問題ノ答案ハ裁判所ノ官吏督監シテ之ヲ作ラシム

試験委員長ハ受験者ノ申立アルトキハ區裁判所ニ於テ筆記試験問題ノ答案ヲ

作ラシムルコトヲ得

第十四條 受験者ノ及第落第及及第者ノ優劣ハ筆記試験口述試験ノ成績ニ對ス

ル委員過半數ノ意見ニ從テ之ヲ決ス

及第落第ニ付テノ意見數相半スルトキハ落第ト看做スヘシ

第十五條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員長及試験委員ノ連署シタル及第證

書ヲ授與ス

第十六條 試験ニ落第シタル者ハ更ニ三箇月以上修習ヲ爲スニ非サレハ再ヒ試

験ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 不正ノ方法ヲ以テ及第ヲ企テタル者ハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス

其及第シタル者ハ及第ノ效ナキモノトス

第十八條 試験委員ハ試験ノ問題及成績ヲ記録ニ記載スヘシ

第十九條 試験委員長ハ及第者ノ氏名及其試験成績ヲ控訴院長ニ報告スヘシ

第二十條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セス執達吏ニ任セラル、コトヲ得

第一 官立府縣立中學校又ハ之ト同等ナル官立府縣立學校司法省舊法學校又

ハ帝國大學ノ監督ヲ受ケタル舊私立法學校及文部大臣ノ認可ヲ經タル

學則ニ依リ法律學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ有スル者

第二 裁判所書記ノ登用試験ニ及第シタル者

第三 判任官以上ノ職ヲ現ニ奉シ又ハ曾テ奉シタル者

第四 陸軍下士ニシテ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得ル者

第二十一條 第三條乃至第六條ノ規程ハ前條ニ掲ケタル者ニモ亦之ヲ適用ス

前條第四ニ該ル者ハ職務修習ノ願書ニ修習ヲ爲サントスル區裁判所ヲ記載シ

陸軍大臣ヲ經由シテ司法大臣ニ差出スヘシ司法大臣ハ願書ヲ管轄控訴院長ニ送付スヘシ

第二十二條 試験及第者及第二十條ニ掲ケタル者ニシテ職務修習ヲ終リタル者ノ任補ハ執達吏ノ缺員アルヲ待テ控訴院長之ヲ攝行ス

第二十三條 執達吏ニ任セラレタル者ハ任補ノ日ヨリ三十日内ニ保證金ヲ管轄地方裁判所ニ納ムヘシ若シ其期間内ニ保證金ヲ差出サ、ルトキハ職務ヲ罷免ス

保證金ハ五百圓以下ニ於テ土地ノ情況ニ從ヒ控訴院長之ヲ定ム

保證金ハ相當ノ價格アル公債證書若ハ日本銀行株券ヲ以テ之ニ代ユルコトヲ得

第二十四條 執達吏保證金ヲ納メタルトキハ裁判所ハ官印ヲ交付ス

執達吏ハ官印ノ交付ヲ得タル後ニ非サレハ職務ヲ行フコトヲ得ス

附則

第二十五條 本則實施ノ際ハ職務修習ヲ要セス試験及任補ヲ行フコトヲ得

○代言人試験問題

◎明治十九年春期試験

○刑事法理及實地問題

第一問 裁判言渡ノ効力ヲ詳論ス可シ

第二問 刑法第百條第百一條ノ意義理由及諸規則中數罪俱發例ヲ用ヒサル者アル理由如何

第三問 損害賠償ヲ要求スルニ如何ナル條件ヲ要スル乎又如何ナル標準ニ依リテ其金額ヲ量定ス可キ乎

第四問 一般ノ不諭罪及ヒ其理由ヲ詳述ス可シ

第五問 即時犯繼續犯連續犯ノ區別及其理由如何

第六問 甲友人乙ニ金貨三百圓ヲ預ケ乙時ニ證券印紙ヲ所持セサルニヨリ先ツ假證書ヲ授與セリ後本證書ト引換フルニ當リ甲ノ目一文字ナキヲ幸トシ金貨ノ字ヲ省キ左ノ如ク記載セリ

預リ金證書

一金三百圓也 但シ使用ヲ許サス

代言人試験問題

右之金圓正ニ御預リ申候御入用ノ節ハ何時マリトモ御返還可申候爲後日證書
如件

年月日

甲太郎殿

乙

助

甲其文字ニ心付カスシテ之ヲ受領ス他日事アリテ丙ニ示シ始メテ金貨ノ明示
ナキヲ知リ乙ニ請フ乙初メハ正貨ヲ預カラサル旨ヲ主張セシカ數回問答ノ末
遂ニ其罪ニ服ス

第七問 甲乙ニ謂テ曰ク予ハ丙ニ宿怨アリ彼ヲ毆撃シテ癡篤疾ニ至ラシメ以テ
甘心セントス然ルニ彼レ脅力アリ予カ敵ニアラス如何セハ可ナラン乙曰ク易
々ノミ彼レ賭博ヲ嗜ム今他人ノ僞書ヲ作り招クニ賭博ヲ以テセハ其之ニ赴カ
ンヤ必セリ子夜ニ乘シ之ヲ半途ニ要撃セハ則チ疾雷耳ヲ掩フニ違アラヌ彼レ
カアルモ之ヲ用ユルニ所ナク而ノ子ハ亦後難ナカラント甲之ヲ然リトシ尙其
書ヲ作爲センコトヲ請フ乙乃チ左ノ賭博ノ招狀ヲ書シテ之ヲ附與ス

口演

只今ヨリ某家ニ於テ戊己等ノ數人例會相催シ候間直チニ御出張有之度候

年月日

世話人 某

丙吉殿

後ニ其計策ノ拙ニシテ事ノ發覺シ易キヲ恐レ之ヲ停メント欲ス然ルニ甲ニ會
スルヲ得ス偶丁ニ會ツテ其實ヲ告ケ之ヲ囑托ス丁陽ニ之ヲ諾シ心ニ甲乙ノ罪
ヲ得ンヲ欲シ甲ニ會スト雖モ故ラニ之ヲ通告セス甲ハ終ニ乙ノ計策ヲ用ヒ丙
ヲ要撃シタルモ力敵セス却テ甲ノ捕フル所ト爲リ引致セラル、ニ至ル而ノ丙
ハ創傷ヲ負ヒタルモ廿日ヲ經テ全癒セリ右ノ事實ニ付キ甲乙丙丁ノ處分如何
理由ヲ詳述シテ之ヲ判決スヘシ

○民事法理及實地問題

第一問 法理上婚姻及贈與ハ契約ナルヤ且其理由ヲ説明ス可シ
第二問 儒生甲嘗テ手牘ヲ乙ニ贈レリ其文章絶妙字體モ亦遒美ナリ後未タ日ナ
ラス乙其手牘ヲ石版ニ附シ以テ之ヲ發賣セリ甲乃チ故障ヲ述ヘ發賣差止ノ訴
訟ヲ起シタリ右ノ事實ニ付キ理由ヲ詳述シ甲乙ノ典直ヲ判定ス可シ
第三問 甲者ノ所有地乙者ノ所有地ト相隣シ甲者ノ地ハ高臺ニ乙者ノ地ハ其
懸崖ノ下ニ在リ一日乙者土工ヲ起サント欲シ懸崖ノ下ナル其所有地ヲ墮墜ス
甲者我カ地ノ崩壞センコトヲ恐レ乙者ニ對シテ充分ノ注意ヲ請フ乙者乃チ左ノ
約束證ヲ作り之ヲ甲者ニ與ヘリ

代官人試驗問題

自分儀今般都合ニ依リ自分所有地ヲ堀鑿候處貴殿御所有地ヲ崩壞セシムル
恐アルヲ以テ充分ノ注意ヲ用ヒ相當ノ工師ヲ傭入レ貴殿へ聊カ御迷惑不相
掛候様精々入念可致候若シ不注意疎漏等ヨリ御所有地ヲ崩壞セシメ候節ハ
豫定損害金壹千圓辨償可致候仍リテ爲後日約定如件

年月日

乙 者印

甲者殿

乙者乃チ充分ノ注意ヲ爲シ相當ノ工師ヲ傭ヒ堀鑿ニ着手セシニ工事未タ半ハ
ナラサル中一夜大雷雨ノ爲メニ甲者ノ所有地夥シク崩壞セリ因テ甲者ハ乙者
ヲ訴へ豫定損害金千圓ヲ請求セリ乙者ハ充分ニ注意シ約束ニ背キシ所ナキヲ
以テ賠償ノ責任ナク且ツ損害ハ金五百圓ニ過キサレハ甲者ノ要求ニ應シ難シ
ト答辯セリ右事實ニ付理由ヲ詳述シテ甲乙ノ曲直ヲ判定ス可シ

◎明治十九年秋期試験

刑事法理及實地問題

第一問 醉狂シテ罪ヲ犯シタル者ノ處分如何右理由ヲ詳述シテ答案ヲ作ルヘシ
第二問 特別ノ不諭罪及其理由ヲ詳述ス可シ

第三問 甲金若干ヲ乙ニ借ル期限ニ至ルモ返ス能ハス因テ延期ヲ請ヘ凡乙聽カ
ス督責酷々急ナリ甲窮迫ノ極終ニ惡意ヲ生シ一夜乙ノ庫中ニ潛入シ筐底ヲ探
リ向キニ授與シ置キタル借用證書ヲ得テ其裏面某月日返濟ノ文字ヲ記入シ而
シテ原ノ如ク之ヲ納メ又乙ノ無記名公債證書數紙ヲ取テ之ヲ破毀シ門前ノ川
流ニ投シテ去ル乙之ヲ知ラス他日治安裁判所ニ請テ甲ヲ召喚シ勸解廷ニ於テ
證書ノ檢閲ヲ受クルニ當リ始メテ裏書キアルヲ發見シタレハ反證ヲ舉クル能
ハサルヲ以テ願下ヲ爲シ是必ス甲ノ所爲ナランヲ疑ヒ告訴セント欲スル際甲
ハ右始末ヲ某官署ニ自首セリ右甲ノ處分如何理由ヲ詳述シテ判決ス可シ

第四問 甲逆旅ヲ山間ニ開キ宿ヲ投スル者アレハ則チ毎ニ之ヲ殺シテ其財ヲ奪
フ人力車夫其情ヲ知り行旅ノ資斧アル者ヲ見レハ必ス乘車セシメ且甲ノ逆旅
ノ待遇善キヲ虛稱シテ此ニ投宿セシメ而シテ甲カ奪フ處ノ財ハ之ヲ折半ス博
徒此事ヲ聞キ以爲ラク奇貨居ル可シト乃旅客ニ扮シテ山間ヲ過ク乙例ニ依テ
之ヲ逆旅ニ誘導ス夜三更甲刀ヲ提ケテ丙ノ臥房ニ潛入シ臥具ヲ隔テ、之ヲ刺
ス空床ナリ忽チ一人暗中ヨリ大喝一聲跳出シテ曰ク吾ハ探偵吏ナリ汝輩カ人
ヲ殺シテ財ヲ奪フヲ聞ク故ニ來テ實跡ヲ檢ス汝若シ吾ニ賄セハ已マン否ラサ
レハ勾致シテ其罪ヲ糾サント之ヲ見レハ丙ナリ甲事ノ意外ニ出ルニ驚キ狼狽

シテ百圓ヲ丙ニ與フ後事發覺シ甲乙丙ヲ審訊スルニ丙ハ甲ノ實子幼時他人ニ拐帶シ去ラレシ者ナリ右甲乙丙ノ處分如何理由ヲ詳述シテ之ヲ判決ス可シ

○民事法理及實地問題

第一問 占有權ノ成立ニ必要ナル原素及ヒ其效果右事由ヲ詳述シテ答案ヲ作ル可シ

第二問 保證ノ本義及ヒ其效果右理由ヲ詳述シテ答案ヲ作ル可シ

第三問 甲乙ニ就テ金圓ヲ借ント約ス而シテ其擔保ナキニ苦シム藏スル所ノ鑿造ノ金塊一枚アリ之ヲ將テ抵當トナサント欲スレト乙ノ性伶俐ニシテ其鑿造ナルヲ覺知センコトヲ恐ル然レト保證ヲ依頼スヘキノ知己ナシ因テ右金塊ヲ持チ丙ノ所ニ至リ之ヲ示シテ曰ク予乙ニ金圓ヲ借ラント約ス此金塊ヲ將テ抵當トナサント欲スレト乙盜難ヲ恐レテ之ヲ好マス願クハ之ヲ子ニ寄托シ而シテ一印ノ押捺ヲ煩ハサント丙聞テ之ヲ信シ甲ノ請ニ從テ保證人トナリタルヨリ甲ハ直チニ乙ノ所ニ至リ其捺印ノ證書ヲ示シ前約ノ實行ヲ請フ乙固ヨリ丙ヲ信ス故ニ金圓ヲ貸與セリ後事發覺セシニ依リ丙ハ其押印ヲ取消サント述フレト乙之ヲ承諾セス右ノ事實理由ヲ詳述シテ乙丙ノ曲直ヲ判定ス可シ

第四問 甲公證ヲ經テ田圃若干歩ヲ乙ニ賣ル而シテ三年ヲ期シ原價買戻ノ約ヲ

ナセリ居ルコト二年餘甲家道日ニ衰フ乙謂ラク彼貧復之ヲ買戻ヲ得ス薄利ノ田圃ヲ守ランヨリハ寧ロ之ヲ賣ルニ若カスト偶々隣地ノ所有主丙該田圃ヲ併有セント欲スルノ意アルヲ聞キ行テ之ヲ謀ル丙大ニ喜ヒ即日買買ノ約ヲ爲シ公證ヲ經テ過當ノ高價ニ買取リタリ後甲之ヲ聞キ乙ノ違約ヲ責メ遂ニ起訴シテ曰ク乙ノ所爲不當ナリ速カニ丙ヨリ買戻シ前約ノ如ク原價ヲ以テ賣返スカ否ラサレハ丙ニ賣リタル代金ノ中原價ヲ除去シ其餘ノ金員ハ乙ニ在テハ所謂不義ノ利得ニシテ當然我カ獲得スヘキ者ナルニ因テ之ヲ違約ノ損害補償トシテ償却ヲ受ケント乙ハ亦之ニ答辯シテ曰ク彼實際ノ損害ヲ證明シテ其賠償ヲ求ムルハ格別只違約セシノミヲ以テ徒ラニ要償ヲ受ク可キノ義務ナシト右事實ニ就キ理由ヲ詳述シテ曲直ヲ判定ス可シ

○治罪法問題

第一問 檢察官ハ法律上之ヲ一體ト見做ス其理由及ヒ結果如何右理由ヲ詳述シテ答案ヲ作ル可シ

○訴訟手續問題

第一問 訴訟ニ就キ他人之ニ關涉スルヲ得ルハ如何ナル場合ニ在ル乎右理由ヲ詳述シテ答案ヲ作ルヘシ

代官人試驗問題

◎明治二十年試験

○刑法問題

第一問 盜罪ト受寄物費消罪トノ差異如何
第二問 再犯加重ハ一事再理ス可カラストノ格言ニ牴觸セサルヤ否ヤ理由ヲ附シテ答辯スヘシ

○治罪法問題

第一問 檢事司法警察官ハ現行犯ニ付如何ナル處分ヲ爲スコトヲ得ルヤ其處分ノ性質及區域ヲ明示ス可シ
第二問 公訴權消滅ノ原由トシテ確定裁判ノ効力ヲ申立ツルニ付必要ナル條件如何

○財産法問題(佛法受験者ニ限ル)

第一問 舟筏ノ通スル河ト其通セサル川トハ沿岸所有者ノ權ニ關シ如何ナル差違アルヤ

○私犯法問題(英法受験者ニ限ル)

第二問 得替物ニ設ケタル入額所得權ト通常ノ所有權トハ如何ナル差違アルヤ
第一問 損害アリト雖モ權利ヲ毀損セラル、コトナキ時ハ損害賠償ノ訴ヲ起スヲ得ストノ規則アリ例ヲ擧ケテ之ヲ説明セヨ

○契約法問題

佛法第一問 義務相殺ノ定義及其條件如何
佛法第二問 義務ニ關係セサル者義務ノ辨濟ヲ爲セシキハ如何ナル權利ヲ有スルヤ

英法第一問 約報ノ定義如何又契約ヲ有效ナラシムルニ充分ナル約報ト否ラサル者トヲ區別シテ説明ス可シ

英法第二問 甲ナル鐵道會社アリ若干月ノ後ヨリ乙ナル工師ヲ雇ヒ入レンコトヲ約シ其後甲ハ乙ニ對シ此契約ヲ履行セサル者ヲ明言セシキ期限未ダ至ラスト雖モ乙ハ直ニ之ヲ破約トシテ損害賠償ノ訴ヲ起スコトヲ得ルヤ此場合ヲ推論シテ未行契約ノ違背ニ關スル一般ノ法理ヲ説明セヨ

○時効法問題(佛法受験者ニ限ル)

第一問 書入抵當附ノ債主權ハ時効ニ因テ消滅スルヤ
第二問 本人時効ヲ拋棄セシキ他人ヨリ時効ヲ申立ルコトヲ得ル場合及ヒ其理由如何

○證據法問題(英法受檢者ニ限ル)

第一問 訴訟争點ニ關スルモノト否ラサル者トノ證據ノ區別如何
第二問 證人ハ如何ナル事實ノ陳述ヲ拒ムコトヲ得ルヤ

○會社法問題

佛法第一問 商事會社トハ如何ナル契約ヲ云フカ其會社契約ノ具備ス可キ性質ヲ一々詳述ヲ可シ

佛法第二問 差入會社ノ差金人ハ通常債主ト如何ナル差違アルヤ

英法第一問 組合ト各種ノ會社トノ法律上ノ差違如何

英法第二問 組合及會社ヲ解散セシキハ如何ナル順序ニ依リ其財産ヲ處分ス可キヤ

○訴訟手續問題

第一問 身代限リノ際差押フ可カラサル物品ノ種類ヲ示シ且ツ其理由ヲ詳述ス可シ

第二問 勘解ヲ設クルハ如何ナル趣意ナルヤ又之ヲ願フハ必要ナルヤ將々隨意ナルヤ

◎明治廿一年試験

○刑法問題

第一問 抗拒ス可ラサル強制ニ出テタル所爲ト正當防衛ニ出テタル所爲トハ如何ナル差異アルヤ

第二問 賭博罪ト富籤興行ノ罪トハ罪質上如何ナル點ニ於テ區別アリヤ

○治罪法問題

第一問 公訴期滿免除ノ期限ハ重罪輕罪違警罪ニ因リ異差アリ其重罪輕罪違警罪タルコトハ何ニ依リ何人ニ於テ之ヲ定ム可キ乎

○財産法問題(佛法受檢者ニ限ル)

第一問 用叙權利者土地ヲ離レサル果實ヲ賣却シ買主未タ之ヲ收穫セサル前ニ於テ其用収權消滅シタル片ハ右賣買ハ有効ナリヤ否若効有ナリトセハ其代價ハ何人ニ屬ス可キ乎

第二問 隣地ノ觀望ニハ幾許ノ種類アリヤ觀望ノ隣地ニ不利ナル程度ハ孰レノ種類ニ付テモ同一ナル乎

○私犯法問題(英法受檢者ニ限ル)

第一問 實地ノ損害ナキモ法律ニ於テ損害アリト推測スル場合如何

第二問 如何ナル場合ニ於テ雇主ハ雇人ノ私犯ニ對シテ其責任アリヤ

代官人試験問題

○契約法問題

佛法第一問 數中擇一ノ義務ニ於テハ孰レノ目的物ニ付キ何時ヲ以テ其所有權ヲ權利者ニ移ス者ナルヤ

佛法第二問 連帶義務者ノ一人權利者ノ訴訟ヲ拒ム爲メ如何ナル抵拒法ハ之ヲ用ユルコトヲ得如何ナル抗拒法ハ之ヲ用ユルコトヲ得サルヤ

英法第一問 虛妄ノ陳述ノ契約ニ影響ヲ及ホス場合如何

英法第二問 契約者其契約ヲ履行セサルハ一方ノ對手ハ如何ナル權利ヲ得ルヤ

○證據法問題

佛法第一問 立證ノ責ハ何人ニ在リヤ

佛法第二問 百五十一フラン以下ノ事件ニハ人證ヲ許サ、ルノ理由及此原則ノ例外如何

英法第一問 舉證ノ責任移轉ニ關スル規則及例外ヲ掲ク可シ

英法第二問 口證ヲ以テ證書ヲ變更増減スルヲ得ストノ原則アリ其制限若クハ例外如何

○賣買法問題

佛法第一問 買戻ノ約束アル賣買ニ付賣主買主ハ第三者ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルヤ

佛法第二問 賣主ハ賣却シタル物品ノ如何ナル環瑾ニ付擔保スル義務アリヤ

英法第一問 賣買ト賣買ヲ爲スヘキ契約トハ契何ナル區別アリヤ例ヲ舉ケテ之ヲ詳論スヘシ

英法第二問 賣主ノ權利如何

○代理法問題

佛法第一問 代理契約ハ何人ノ利益ノ爲メニ爲シ得ルヤ

佛法第二問 代理ヲ任セラレタル者ハ何レノ場合ニ於テモ能力ヲ有スルコトヲ要スル乎

英法第一問 代理人其代理事務ヲ行フニ付遵守スヘキ義務如何

英法第二問 左ノ場合ニ於テ本人ハ第三者ニ對シテ責任アリヤ否ヤ及其理由如何
(甲)代理人虛妄ノ陳述ヲ爲シ代理人ハ其情ヲ知ラサルモ本人之ヲ知ル場合
(乙)代理人虛妄ノ陳述ヲ爲シ本人其情ヲ知ラサルモ代理人之ヲ知ル場合

○訴訟手續問題

第二問 民事裁判ノ執行ハ如何ナル裁判所ノ管轄ニ屬スルヤ又如何ナル場合ニ

代理人試驗問題

於テ之ヲ請求スルコトヲ得ルヤ

◎明治廿二年試験

○刑法問題

- 第一問 無意犯過失犯ノ區別及ヒ未遂犯無効犯ノ區別ヲ詳説ス可シ
- 第二問 甲者乙者ノ銀側時計一箇ヲ保管セリ甲者ノ妻丙者該時計ノ夫ノ所有ニ非サルヲ知リナカラ夫ノ不在中之ヲ他人ニ質入シ金若干ヲ借用シタリ丙者ノ處分如何

○治罪法問題

- 第一問 檢察官公訴ヲ拋棄スト雖モ裁判官ニ於テ相當ノ判決ヲ爲サ、ル可カラサルノ理由如何

○財産法問題(民法受驗者ニ限ル)

- 第一問 圍繞地ノ故ヲ以テ價金ヲ出シ通行ノ地役權ヲ得タリシカ圍繞地ニ接シ新公道ノ開通アレハ地役權ヲ失フヤ若シ之ヲ失フトセハ前ニ拂ヒタル價金ヲ取戻スヲ得ルヤ
- 第二問 占有者カ果實ヲ獲得スルニハ如何ナル條件ヲ要スルカ

第一問(再試験) 入額所得者カ其所得權ヲ設定セル土地ニ建築シタル家屋ハ所有者賠償ヲ爲サスシテ之ヲ保有スルヲ得ル乎

第二問(再試験) 地役ノ設定證書ニ依テ承役地ノ所有者ニ地役權ノ執行及ヒ保存ニ必要ナル工事ノ費用ヲ負擔セシメタルニ後日所得者ハ其土地ヲ他人ニ賣却シタル時ハ右費用負擔ノ義務ハ買主ニ移轉スルヤ否ヤ理由ヲ附シテ答辯ス可シ

○私犯法問題(民法受驗者ニ限ル)

- 第一問 私犯訴權ヲ成立セシムル要素如何
- 第二問 民事上誹謗ノ罪ヲ構成スル原素ヲ説明ス可シ
- 第一問(再試験) 共同懈怠ニ關スル責任ノ有無ヲ判スル原理ヲ説明セヨ
- 第二問(再試験) 不法監禁犯ノ定義ヲ下シ其必要原素ヲ明示ス可シ

○契約法問題

佛法第一問 義務者契約シタル期限アルコトヲ知リナカラ其期限前ニ負債ヲ辨濟シタル場合ト錯誤ニ依リ期限ナキモノト思惟シ辨濟シタル場合ト其効果同一ナルカ

佛法第二問 代位辨濟ト債主權讓渡トノ差異如何

代官人試験問題

佛法第一問(再試験) 連帶義務者ノ一人ハ總テ他ノ連帶義務者ノ有スル排訴方法ヲ利用スルヲ得ル乎

佛法第二問(再試験) 不成立又ハ取消シ得可キ義務ハ有效ニ更改サル、ヲ得ルヤ

英法第一問 申込ハ如何ナル場合ニ於テ消滅スルヤ

英法第二問 錯誤ハ如何ナル場合ニ於テ契約ヲ無効タラシムル乎

英法第一問(再試験) 契約ヲ取消シ得ヘキモノト爲ス處ノ詐僞ハ如何ナル條件ヲ要スル乎

英法第二問(再試験) 契約上ノ義務者法律上ノ作用ニヨリ責任ヲ免カル、場合如何

○證據法問題

佛法第一問 公正證書ニテ其條件ヲ欠キタル時ハ其證書ハ何等ノ證據力ヲモ有セサル乎

佛法第二問 自白ハ如何ナル場合ニ之ヲ取消スヲ得ルヤ

佛法第一問(再試験) 認メラレタル私證書ハ公正證書ニ等シトハ如何ナル意義ニシテ其間何等ノ差異ナキヤ

佛法第二問(再試験) 自白ハ分割スヘカラストノ原則ヲ説明ス可シ

英法第一問 死者臨終ノ際ニ爲シタル陳述ハ如何ナル條件ニ因リ證言ヲ爲スヲ得ル乎

英法第二問 公益上證言セシメサル事實ノ種類如何

英法第一問(再試験) 争點ニ關スル事實トシテ證明ヲ許スモノト否トヲ區別スル原理ヲ示シ其理由ヲ記述ス可シ

英法第二問(再試験) 證書ノ解釋ニ關シ習慣ノ證明ヲ許ス場合如何併セテ其理由ヲ記述ス可シ

○賣買法問題

佛法第一問 擔保義務ハ可分義務ナルヤ否ヤ

佛法第二問 物件引渡ト看做スヘキ所爲ニ付不動産ヲ賣渡シタル場合ト動産ヲ賣渡シタル場合ニ如何ナル差違アルカ

佛法第一問(再試験) 他人ノ所有ニ屬スル財産ヲ賣渡シタルハ如何ナル效力ヲ生スル乎理由ヲ附シテ詳述ス可シ

佛法第二問(再試験) 數人共同シテ買戻ノ條件ヲ付シテ未分物ヲ賣渡シタルハ如何シテ買戻シヲ行フヲ得ル乎之ヲ詳説ス可シ

英法第一問 物品引渡ニ付明約ナキ場合及ヒ其明約アル場合ニ於テ賣主ノ義務

如何

英法第二問 見本ニテ賣買ヲ爲シタル時ノ買主ノ權利如何
 英法第一問(再試験) 物品ノ瑕疵ニ付賣主ノ擔保ス可キ者ト買主ノ損失ニ歸ス可
 キモノトヲ定ムル原則及ヒ例外如何
 英法第二問(再試験) 賣主ノ有スル對世的救濟權(物上訴權)ヲ列記シ其發生ノ場合
 ト結果トヲ略述スヘシ

○代理法問題

佛法第一問 代理人ハ他人ヲ以テ己レニ代ラシムルヲ得ルヤ之ヲ詳説ス可シ
 佛法第二問 代理ハ如何ナル時ヨリ第三者ニ對シテ終了スル乎
 佛法第一問(再試験) 一事件ニ付數名ノ代理人ヲ設立スルニ一通ノ委任狀ヲ以テ
 スルト各通ノ委任狀ヲ以テスルトニヨリ代理人ノ義務ニ如何ナル差違ヲ生ス
 ル乎之ヲ詳述ス可シ
 佛法第二問(再試験) 報酬ヲ受クル約束アル代理ト勞働ノ賃貸トノ間ニ如何ナル
 差異アル乎

英法第一問 代理者其本人ニ對シ有スル權利如何

英法第二問 代理權消滅ノ原因如何

英法第一問(再試験) 代理人ノ爲シタル通知及代理人ハ爲シタル通知ハ如何ナル

場合ニ於テ第三者及本人ニ對シテ効力ヲ有スルヤ

英法第二問(再試験) 代理人死亡ニヨリ代理權ノ消滅スル場合ト否トヲ區別シ其

理由ヲ詳述ス可シ

○訴訟手續問題

第一問 初審裁判ノ連帶訴訟者ノ一人控訴ヲ爲シ利益ノ判決ヲ得タル時ニハ其
 利益ハ他ノ控訴ヲ爲サ、ル初審連帶者ニモ及フヤ否ヤ又此ノ點ニ關シ民事々
 件ト刑事々件トノ間ニ差異アリヤ其理由如何

◎明治廿三年試験

○刑事問題

第一問 貨幣ノ偽造ト變造トハ如何ナル點ヲ以テ區別スルヤ理由ヲ附シテ之ヲ
 詳論ス可シ

第二問 竊盜罪ト受寄物費消罪トノ差異如何

○治罪法及訴訟手續問題

第一問 豫審判事カ公訴私訴ヲ受理シナカラ公訴ヲ免訴シタル場合ニ私訴ニ付

代官人試驗問題

何等ノ處分ヲ爲スヲ要セサルハ如何ナル理由ナルヤ
第二問 負債主ノ無資力ナルト判然シタル上ハ直ニ保證人ニ依リ出訴スルヲ得ルヤ

○私犯法問題(英法受驗者ニ限ル)

第一問 法律上惡意ヲ推測スル場合アリ此推測ノ惡意トハ如何ナルモノヲ云フヤ例ヲ擧ケテ説明ス可シ

第二問 雇主カ雇人ノ私犯ニ對シ責任ヲ有セサル場合如何

○財産法問題(佛法受驗者ニ限ル)

第一問 所有權ノ移轉スル時期ハ如何

第二問 用益權ハ時効ニ依リテ獲得スルヲ得ルヤ

○組合法問題(英法受驗者ニ限ル)

第一問 組合員ハ其組合ノ營業ト同一ノ營業ヲ爲シ得ヘキヤ

第二問 組合解散ノ場合ニ於テ如何ナル規則ニ依リ組合財産及組合員ノ私有財産ヲ處分スヘキヤ

○商事會社法問題(佛法受驗者ニ限ル)

第一問 會社ヲ法人ト認ムルト否トニ依リテ其結果ヲ異ニスルヤ

第二問 合名會社ト合資會社(差金會社)トハ如何ナル差異アリヤ

○證據法問題

佛法第一問 舉證ノ責任ニ關スル原則ヲ説明ス可シ

佛法第二問 公正證書ノ効力ト私署證書ノ効力トヲ對比シテ詳説セヨ

英法第一問 最良ノ證據ヲ提出ス可シトノ規則ヲ例解シ且此規則アル所以ヲ説明ス可シ

英法第二問 品行ニ關スル證明ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ許スヤ

○賣買法問題

佛法第一問 債權ノ讓渡ト他ノ物件ノ賣買トノ間ニ如何ナル差異アリヤ

佛法第二問 夫婦間ノ賣買ハ何カ故ニ之ヲ禁スルヤ

英法第一問 現存セサル物品ノ賣買ハ有效ナリヤ

英法第二問 如何ナル場合ニ於テ賣主ハ途中差留權ヲ有スルヤ

○契約法問題

佛法第一問 停止ノ未必條件ト解除未必條件トノ區別ヲ詳説ス可シ

佛法第二問 期限ノ利益ヲ失フ場合ヲ詳説セヨ

英法第一問 第三者ニ對シ契約ヨリ生シタル權利ヲ主張シ得ル場合ヲ例解シテ

理由ヲ説明ス可シ

英法第二問 如何ナル場合ニ於テ契約ノ特別履行ヲ求ムルヲ得ルヤ

◎明治廿四年試験

○刑法問題

第一問 繼續犯ト即時犯ノ區別如何又區別ハ刑ノ適用上如何ナル必要アルヤ

○刑事訴訟法問題

第一問 私訴ノ性質及彼此相同シキ點ト相異ナル點トヲ詳述ス可シ
第二問 第二審ニ於テハ第一審ノ判決ニ於テ酌量減輕ヲ與ヘサル理由トシテ其判決ヲ取消スコトヲ得ル乎

○民事訴訟法問題

第一問 某裁判所ニ於テ甲者乙者ニ對シ訴訟中丙者ハ從參加ノ申請ヲ爲シタリ此申請ニ付甲者異議ヲ述ヘタルニ依リ裁判所ハ丙者ヲ審訊シタル後從參加ヲ許サ、ルノ決定ヲ爲シ其理由トシテ丙者ハ利害ノ關係ヲ有セスト云ヘリ此決定ニ對シ丙者ハ即時抗告ヲ爲セリ抗告裁判所ハ不變期間ヲ經過セリトノ理由

ヲ以テ之ヲ棄却セリ此抗告裁判所ノ裁判ニ對シ丙者ハ更ニ抗告ヲ爲スヲ得ルヤ

第二問 被告ニ於テ左ノ申立ヲ爲セリ

若シ原告敗訴ノ裁判ヲ受ケ訴訟費用ノ負擔ヲ命セラル可キハ其裁判ニ假執行ノ宣言ヲ付セラレタリ

此場合ニ於テ裁判所ハ假執行ノ宣言ヲ付ス可キヤ

第三問 口頭辯論ノ期日ニ於テ原告欠席シ被告カ欠席判決ノ申立ヲ爲シタルハ裁判所ハ必ス欠席判決ヲ與フ可キヤ又ハ或ル場合ニ於テハ他ノ處分ヲ爲スヲアリヤ

○商法問題

第一問 保險ト博戯ト性質上如何ナル點ニ於テ區別スヘキヤ

第二問 會社ハ立法上之ヲ法人ト認ムルヲ可トスルヤ否ヤ又之ヲ法人ト認ムルト否トニ由リ其結果ヲ異ニスルヤ否ヤヲ説明ス可シ

第三問 爲替手形ト約束手形ノ差異如何

○民法問題

第一問 錯誤強暴及目的ノ不適法カ合意ニ與フル效果ニ差異アリヤ若シ之レア

ラハ詳細ニ説明論述ス可シ

- 第二問 代理人權限外ノ事ヲ爲シタルハ委任者カ第三者ニ對シテ其責ニ任スヘキ場合ト其責ニ任セサル場合トヲ區別シ理由ヲ明示ス可シ
- 第三問 確定裁判ノ効力ヲ以テ請求ニ對抗スルニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ
- 第四問 數多ノ保證人中無資力ト爲リタル者アルハ他ノ保證人ハ債權者ニ對シ如何ニ其義務ヲ履行ス可キヤ

◎明治廿五年試験(但漏洩シタル分)

○刑法問題

- 第一問 自首減輕ヲ設ケタル理由及ヒ謀故殺ニ自首減輕ヲ與ヘサル理由如何
 - 第二問 強盜婦女ヲ強姦シ因テ死ニ致シタル者ノ處分如何
- 刑事訴訟法問題
- 第一問 搜查及豫審ノ目的如何
 - 第二問 刑事訴訟法第百八十四條第一項ノ意義及其理由ヲ説明スヘシ

○法文

第百八十四條 裁判所ニ於テハ訴ヲ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲ス可ラス但辯論ニ依リ發見シタル

附帶ノ犯罪ニ付テハ此限ニ在ラス若シ附帶ノ犯罪ニ付嫌疑ヲ必要ナリトスルトキハ本案ノ辯論ヲ停止スルコトヲ得

第百八十五條 左ノ場合ニ於テハ附帶ノ犯罪ナリトス

- 第一 同一ノ場所ニ於テ同時ニ一人又ハ數人ニテ數罪ヲ犯シタルトキ
- 第二 數人通謀シテ日時又ハ場所ヲ異ニシ數罪ヲ犯シタルトキ
- 第三 自己又ハ他人ノ犯罪ヲ容易ニスル爲メ又ハ其罪ヲ免ル、爲メ他ノ罪ヲ犯シタルトキ

○民事訴訟法問題

- 第一問 中斷、中止、休止ノ原因及効果如何
- 第二問 甲乙間ノ訴訟ニ丙者從參加ヲナシ而シテ此裁判確定シタルハ從參加人ハ如何ナル効力ヲ及ホスヤ
- 第三問 妨訴ノ抗辯ニ付下シタル中間判決ニ對シ控訴ヲ爲シタルハ控訴裁判所ノ判決ハ中間判決ナルヤ將タ終局判決ナルヤ

◎同年訂正試験(東京ノ分)

○刑法問題

- 第一問 刑法第二條ニ法律ニ正條ナキモノハ何等ノ所爲ト雖モ罰スルコトヲ得

代官人試験問題

ストアル其意義及理由如何

第二問 毆打ニ因リ誤テ他人ヲ創傷シタルモノト過失ニ因テ他人ヲ創傷シタルモノトノ區別如何

○刑事訴訟法問題

第一問 公訴消滅ノ原由中一身ニ止マルモノト共犯人ニ及フモノトノ區別及理由如何

第二問 檢事ハ上訴ヲ取下ルコトヲ得ス其他ノモノハ上訴ヲ取下ルコトヲ得ル理由如何

○民事訴訟法問題

第一問 權利拘束ノ發生及終了ノ原因如何

第二問 通常抗告ト即時抗告トノ差異如何

第三問 口頭辯論期日ニ出頭セサル被告ニ對シテ關席判決ヲ爲サル場合アリヤ

○商法問題

第一問 會社ノ株主ト普通ノ債權者トノ間ニ會社ニ對スル權利ト如何ナル差異アリヤ

第二問 偽造若クハ變造手形ノ効力如何

第三問 破産宣告カ破産者ノ財産及能力ニ及ホス影響如何

○民法問題

第一問 不法ノ行爲ニ就テハ法律ノ保護ヲ與ヘストノ原則ヲ適用スヘキ區域如何

第二問 外國ニ於テ内外國人間ニ取結ヒタル契約ノ履行ヲ内國裁判所ヲ請求スルルルハ時効ノ期間ハ何ノ法律ニ依ルヘキヤ理由ヲ付シテ詳論スヘシ

第三問 質權ト留置權トノ差異如何

第四問 遺言ノ性質及其効力如何

○地方ノ分

○刑法問題

第一問 國事犯ト常事犯トノ區別

第二問 十二歳未満ノ幼者ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシメタル者及ヒ豫備ノ所爲ヲ以テ其幼者ノ犯罪ヲ幫助シタル者ノ處分如何

○刑事訴訟法問題

第一問 豫審終結ノ決定ト公判ノ判決トハ其性質及ヒ効力ニ於テ如何ナル差異

代理人試驗問題

第二問 檢事ハ公訴ニ於テ當事者ナランヤ否ヤ理由ヲ付シテ答フ可シ
○民事訴訟法問題

第一問 證明ト疎明トノ區別如何

第二問 上告裁判所カ本案ニ付直チニ裁判ヲ爲スヘキ場合ヲ例示シ且ツ其直チニ裁判ヲ爲ス理由ヲ説明ス可シ

第三問 受命判事又ハ受託判事ノ裁判ニ對シテ不服ヲ申立ツルコトヲ得ルヤ
○商法問題

第一問 見本ヲ以テ爲ス賣買契約ノ効果ヲ説明ス可シ

第二問 拒證書ノ性質及之ヲ作ルト否トニ關係者ニ及ホス利害如何

第三問 破産宣告ニ因リ債務カ辨濟期限ニ至リタル場合ニ於テ債務者ハ割引ヲ求ムルコトヲ得ルヤ否ヤ

○民法問題

第一問 裁判言渡ハ義務發生ノ原因アルヤ否ヤ理由ヲ付シテ詳述ス可シ

第二問 名譽ノ毀損ヲ回復スルニ謝罪文ヲ新聞ニ廣告セシムルノ權利アリヤ
第三問 合意ノ効力ノ第三者ニ及フ場合如何

第四問 取得時効ノ性質及ヒ條件ヲ説明スヘシ

○公證人試験問題

◎明治廿年試験

○公證人規則問題

第一問 公正證書カ公正ノ効力ヲ有セサル場合ヲ列記セヨ

第二問 公正證書中權利者ノ請求アレハ其正本ヲ渡ス可キモノト渡ス可カラサルモノトノ區別及其理由

第三問 法律命令ニ背キタル契約ノ種類及ヒ其適例

○民法問題

第一問 後見人ハ和解ヲ爲スヲ得ル乎

第二問 私生子嫡生子法律上ノ資格ノ差異如何

第三問 換用物不換用物ノ區別如何

○訴訟法問題

第一問 法律上差押ヘ得カラサル種類ヲ列記セヨ

第二問 原告人ニシテ舉證ノ責ナキ場合アルカ若シアラハ其適例ヲ舉ゲヨ

第三問

出訴期限ヲ定ムル理由並ニ起算及ヒ中斷ノ方法如何

○商法問題

第一問

有限責任ノ商社ヲ組織スルニハ如何ナル手續ヲ以テ之ヲ爲スヘキヤ

第二問

賣主ノ代人ニシテ同時ニ買主ノ代人タルコトヲ得ルヤ否ヤ及ヒ其理由

第三問

爲替又約束手形カ他ノ契約ト異ナル點ヲ擧ケヨ

○公證人ノ職務ニ關スル法律命令問題

第一問

公正證書ノ原本ニ印紙ヲ貼用セサル時ハ其證書ノ效力如何

第二問

公正證書ノ正本又ハ正本謄本ニ幾度ノ正本又ハ正本謄本ナルトヲ末尾ニ附記スル理由如何

第三問

遺言書ヲ作りタル公證人其遺言者ノ死亡シタルトヲ知ラサル時ハ如何ノ手續ヲ爲ス可キヤ

○判事檢事登用試験問題

◎明治十八年試験

○財産法問題

第一問

使用權ノ區域如何

第二問

使用權ト收買權(入額所得權)ト同一ノ點及差異ノ點如何

第三問

人爲ニ依リ設定スル地役(一名土地ノ義務)トハ何々ヲ指スヤ

○契約法問題

第一問

佛國民法第千百六十八條ニ於テハ未必條件ヲ未來且ツ未定ノ事件ニノ

ミ限リ千八百八十一條ニ於テハ停止ノ條件ヲ契約者双方ノ未ダ知ラサル現ニ

到來シタル事件ニモ及スモノト右兩條異ナル所如何ニ解釋スヘキヤ適例ヲ掲

ケ説明スヘシ

○證據法問題

第一問

公正證書ト私印證書トノ區別及其利益如何

第二問

追認證書トハ如何追認證書ハ如何ナル場合ニ於テ證據ノ力ヲ有シ又如

何ナル場合ニ於テ其力ヲ有セサルカ

○刑法問題

第一問

犯罪構造ノ諸元素中一二ノ元素ノミヲ共犯シタル者ノ正從ノ區別及偽

證罪ヲ構造スル諸元素ニ付テノ説明

○治罪法問題

第一問

搜索處分ト豫審處分トノ區別及ヒ其理由

第二問 司法警察官現行犯ノ場合ニ於テ豫審處分中假行スルヲ得ヘキモノト得ヘカラサルモノトノ區別及ヒ其理由

◎明治十九年試験

○刑法問題

第一問 未遂犯ト不能犯トノ差異如何
第二問 正當防衛ニ要スル條件如何
第三問 誣告罪ヲ構成スル要素及誣告ノ誹毀偽證ト異ナル點如何

○治罪法問題

第一問 大赦特赦ノ性質及效果ノ差異如何
第二問 被害者ノ告訴ヲ待テ起ルヘキ事件ニ付被害者告訴ヲ爲シタル後私和シタル時ハ公訴ハ之レカ爲メ消滅スルヤ否理由ヲ説明スヘシ
第三問 被害者未タ私訴ヲ爲サ、ル前既ニ死亡セシ時ハ相續人ハ私訴ヲ爲スヲ得ルヤ果シテ之ヲ爲スヲ得ルトセハ其爲スヲ得ヘキ場合如何

○財産法問題

佛法第一問 不動産ノ區別及ヒ此區別ヨリ出ツル差異如何ヲ詳述セヨ

佛法第二問 占有者某實ヲ獲得スルニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ
佛法第三問 地役即土地ノ義務ハ如何ナル原因ニ由テ消滅スルヤ
英法第一問 地役ハ如何ナル方法ニ由テ生スルヤ例ヲ舉テ説明スヘシ
英法第二問 所有權ニ習慣法上衡平法上ノ區別アリヤ之ヲ例解スヘシ
英法第三問 賃入期限經過後ニ賃地受戻シノ方法アリヤ若シ有リトセハ其方法如何

英法第四問 奴僕ハ主人ノ物品ニ對シテ占有權ヲ有スルヤ否ヤ其理由如何

○契約法問題

佛法第一問 無効ノ契約ト取消シ得ヘキ契約トノ間ニ如何ナル差異アリヤ
佛法第二問 契約ハ第三者ヲ害スルナク又之ヲ利スルヲモナシトハ如何ナル意義ナルヤ又此規則ノ例外アリヤ
佛法第三問 債主ハ自己ノ名義ヲ以テ負債者ノ訴權ヲ行ヒ得ル爲メニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ

英法第一問 約因ノ種類ヲ列舉スヘシ
英法第二問 未丁年者ノ結ヒタル契約ハ如何ナル場合ニ於テ有效ナリヤ
英法第三問 無効契約ト取消シ得ヘキ契約ノ區別ヲ説明シ且例ヲ示ス可シ

英法第四問 契約ノ履行ヲ請求シ得ヘキ場合如何

三四

○證據法問題

佛法第一問 公正證書ニ記載シタル事項ハ總テ同一ノ效ヲ有スルヤ

佛法第二問 私證書ノ日附ハ如何ナル場合ニ於テ第三者ニ對シテ效ヲ生スルヤ

佛法第三問 自認ハ分ツ可カラストハ如何ナル意義ナリヤ例ヲ擧ケテ説明スヘシ

シ

英法第一問 證言ヲ以テ證書ヲ増減變更スルコトヲ得ストノ原則アリ其理由ヲ説明スヘシ

英法第二問 自認ヲ證據トスルニハ如何ナル條件ヲ要スルヤ

英法第三問 舉證ノ責任ニ關スル法則如何

○賣買法問題

佛法第一問 賣主ノ擔保義務ニ關シ有形物件ノ賣買ト債主權ノ賣買トノ間ニ於テ差違アリヤ

佛法第二問 他人ノ有スル物件賣渡ノ契約ハ如何ナル效果ヲ生スルヤ

佛法第三問 賣主ハ如何ナル場合ニ於テ賣買契約ヲ解除セシメ得ルヤ

英法第一問 賣買ハ代價ヲ定メサル可ラストスル原則ハ如何ナル程度マテ之ヲ

及ホスコトヲ得ルヤ

英法第二問 現在セサルモノニシテ賣主ノ目的物ト爲リタル場合アリ其理由及

例ヲ示ス可シ

英法第三問 運送中ノ物品ニ對スル差押權ヲ生スルニ必要ナル條件如何

○訴訟手續問題

佛法第一問 被告ノ擔保者カ躬ヲ訴訟ニ參加シ被告人ヲシテ訴訟ヲ脱セシメ得ルヤ

佛法第二問 義務相殺ト反訴トノ區別如何

佛法第三問 主タル控訴ト附帶控訴ノ定義并ニ兩訴ノ間ニ存スル差異如何

英法第一問 抗辯ヲ爲スヘキ場合及之ヲ爲シタル結果如何

英法第二問 義務相殺若クハ反訴トシテ呈出スヘキ事項如何

英法第三問 行爲差止ヲ請求スルニ付必要ナル條件ヲ説明スヘシ

◎明治廿年試驗問題

○刑法問題

第一問 犯人自ラ控訴シテ敗訴シタルヲ上告ヲテ減刑ヲ得タル場合ニ於テ刑期

判事檢事登用試驗問題

三五

ノ起算方ハ如何理由ヲ付シテ答フ可シ

第二問 重罪ヲ構成スル元素如何

第三問 官ノ證書ヲ偽造シテ他人ヨリ官ノ受取ルヘキ金額ヲ領受シタルモノノ處分如何其理由ヲ詳述シテ判斷ス可シ

○治罪法問題

第一問 附帯犯ト附帯ニ非サル犯罪トノ區別及ヒ其之ヲ區別シタル理由如何

第二問 現行犯ト非現行犯トノ區別及其之ヲ區別シタル理由如何

第三問 被害者又ハ親屬ノ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ親屬中何人ノ爲シタル告訴ヲ以テ有效ノモノトス可キヤ

○財産法問題

佛法第一問 動産ト不動産トヲ區別スルノ利益如何

佛法第二問 人權及物權ノ定義ヲ示シ且此兩種ノ差異ヲ述フヘシ

佛法第三問 入額所得權ト使用トノ差異如何

英法第一問 何人ト雖ル完全ナル土地所有權ヲ有スルコトヲ得ルヤ

英法第二問 所有權ト占有權トノ區別如何

英法第三問 土地ノ生産物ハ動産ナリヤ不動産ナリヤ例ヲ擧ケテ説明スヘシ

○契約法問題

佛法第一問 錯誤ハ契約ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ

佛法第二問 契約ノ目的物其引渡前ニ滅盡シタル片ハ何人ニ於テ其損害ヲ負擔スヘキヤ

佛法第三問 連帶義務ニ付テハ其權利者如何ナル利益ヲ有スルヤ

英法第一問 提供(申込)ハ如何ナル場合ニ於テ効力ヲ失フヤ

英法第二問 約因(報償)ハ其多寡當否ヲ問ハストノ規則アリ例ヲ擧ケテ説明スヘシ

英法第三問 爲シ能ハサル契約即チ不能契約ノ種類ヲ擧ケ且其差異ヲ説明スヘシ

○證據法問題

佛法第一問 如何ナル公正證書ハ執行力ヲ有スルヤ

佛法第二問 法律上推測ニハ反證ヲ許スモノト否ラサルモノトアリ例ヲ擧ケテ説明スヘシ

佛法第三問 自認ハ如何ナル場合ニ於テ之ヲ取消スコトヲ得ルヤ

英法第一問 傳聞證據トハ如何ナル事ヲ指スヤ

英法第二問 推測トハ如何ナル事ヲ指スヤ又其種類如何
英法第三問 證據ヲ要セサル事實ノ種類如何

○賣買法問題

佛法第一問 賣買取消ト賣買解除トノ區別如何

佛法第二問 確定物賣買ト不確定物賣買ノ效果ノ差異如何

佛法第三問 買主代價辨濟ノ義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ賣主ノ有スル權利如何

英法第一問 賣買ノ成立ニ必要ナル條件如何

英法第二問 賣買ト賣買契約ノ區別如何

英法第三問 賣主ヨリ買主物品ヲ受取リタル後買主其物品ニ瑕疵アルコトヲ發見シタル時ハ買主ハ賣主ニ對シテ如何ナル權利ヲ有スルヤ

○訴訟手續

第一問 對審裁判ト欠席トノ差異如何

第二問 控訴ト上告ノ差異如何

第三問 訴訟費用ノ負擔ハ如何ニ之ヲ定ムルヤ

○刑法問題

第一問 新舊ヲ比較スルニ方リ二三ノ舊法アルルハ數法中最モ輕キ刑ヲ適用ス

ヘキカ將ヲ單ニ犯時ノ法律ト新法トヲ比較シ輕キニ從フヘキ哉

第二問 假出獄ト特赦トハ其性質上如何ナル區別アルヤ又假出獄及特赦ハ確定

裁判ノ效力ヲ破フルモノニアラサルカ

第三問 貨幣ノ偽造ト變造トハ如何ナル點ニ於テ其區別アルヤ

○治罪法問題

第一問 法律ニ於テ被告事件ノ模樣ニヨリ有罪タルノ推測ヲ定ムルコトナシトノ

規則ハ如何ナル理由ニ基ク乎

第二問 告訴及告發願下ノ效果如何

第三問 期滿免除ノ經過ヲ停止スル場合アリヤ

○財産法問題

第一問 重定物消費物得替物ノ性質及適用ニ如何ナル差違アリヤ

第二問 賃借權ヲ物上權トナシタルハ學理上如何ナル利益アルヤ又實際上ニ賃

借ノ規則ニ如何ナル變更ヲ生シタルヤ

第三問 地役ノ性質及效果如何

○契約法問題

第一問 契約ハ如何ナル人ノ間ニ其效ヲ生スルヤ

判事檢事登用試験問題

第二問 釋一義務ト過代契約トノ異同如何
第三問 義務釋放ノ效果及釋放ノ無効ナル場合

○證據法問題

第一問 公正證書ハ何等ノ方法ニ依リテ之ヲ攻擊スルヤ且此攻撃ハ公正證書ノ證據力ニ何等ノ影響ヲ及ホスヤ
第二問 百五十「フラン」以上ハ人證ヲ許サ、ル原則ニ係ル例外ヲ示スヘシ
第三問 決審ノ宣誓ハ何人ノ間ニ其效力ヲ生スルカ

○賣買法問題

第一問 賣買ニ特別ナル無能力者アリヤ若シ之アリトセハ其理由效果ヲ明示セ
第二問 一部ノ奪取アル片ハ買主ハ如何ナル權利ヲ有スルヤ之ヲ詳論ス可シ
第三問 債主權ノ賣主ハ何等ノ擔保ヲ負ヒ又ハ負フ「アルヤ

○會社法問題

第一問 法律ニ於テ差金社員ニ會社ヲ支配スル「ヲ許サ、ル理由如何
第二問 株式ト債權トノ差異如何
第三問 無名會社ハ如何ナル條件ニヨリ完全創立シタルモノトスルヤ

○刑法問題

第一問 罪ヲ犯スノ意ナキ所爲ト罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル所爲トハ如何ナル區別アルカ
第二問 犯罪ニ因テ得タル物件ヲ沒收スルノ理由如何
第三問 人ヲ脅迫シテ財物ヲ強取スル者ト人ヲ恐喝シテ財物ヲ騙取スル者トハ如何ナル點ニ於テ區別スル乎

○治罪法問題

第一問 共犯人中ノ一人ニ公訴消滅ノ原由アル片ハ他ノ共犯人ニ如何ナル影響ヲ及ホスヤ
第二問 裁判官ノ心證トハ如何ナル「ヲ云フヤ
第三問 豫審ヲ設クルノ必要并ニ檢事ヲシテ之ヲ爲サシメサルノ理由如何

○財産法問題

佛法第一問 公領財産ト私領財産トノ間ニハ如何ナル差異アル乎
佛法第二問 所有權ト入額所得權ト同一人ニ歸シタル場合ニ於テ入額所得權ハ眞ニ消滅スル乎
佛法第三問 人爲ニ因テ地役ヲ設定スルニ付遵守スヘキ制限如何

英法第一問 地役ト收益權トノ區別如何

英法第二問 質入ト差留權トノ區別如何

英法第三問 法律上ノ財産權ト信託財産トノ區別如何

○契約法問題

佛法第一問 利息ヲ元金ニ引直シ更ニ利息ヲ生セシムルニハ如何ナル條件ヲ要スル乎

佛法第二問

適法ニ成立シタル契約ハ契約者双方ノ間ニ於テ法律ニ揚シト云フ

義如何

佛法第三問 更改ノ場合ニ於テ權利者カ第一義務者ノ財産上ニ有スル特權及書

入債權ヲ第二義務者ノ財産上ニ之ヲ移スコトヲ得ル乎其理由ヲ詳説スヘシ

英法第一問 申込ノ効力ヲ有スル期限如何

英法第二問 有式契約ト單純契約トノ區別如何

英法第三問 法律ノ効力ヲ以テ契約ヲ解除スル場合如何

○證據法問題

佛法第一問 公正證書トシテ無効ナル證書ハ如何ナル場合ニ於テ其信據力ヲ有

スル乎

佛法第二問 人證ヲ用ユルコトヲ得ヘキ場合之ヲ用ユルコトヲ得サル場合及ヒ法律

ニ斯ク之ヲ規定シタル理由如何

佛法第三問 連帶義務者中ノ一名ニ爲シタル決審ノ審ハ他ノ連帶義務者ニ如何

ナル効力ヲ及ホスヤ

英法第一問 被告人ノ品行ニ關スル事實ハ如何ナル場合ニ於テ證明スルコトヲ

得ルヤ

英法第二問 手跡ハ如何ナル方法ニ依リテ證明セラルヘキモノナルヤ

英法第三問 法律ト事實上ノ推測ノ區別及效果如何

○賣買法問題

佛法第一問 擔保ハ可分義務ナルカ將タ不可分義務ナル乎

佛法第二問 買戻契約ヲ設クルノ必要及此契約ヲ執行シタル場合ニ於テ生スル

效果如何

佛法第三問 動産ノ賣買ハ物件引渡ノ前第三者ニ對シテ如何ナル効力ヲ生スル

乎

英法第一問 手附ト内拂トノ區別及之ヲ區分スルノ效果如何

英法第二問 物品ノ引渡ハ如何ナル場合ニ於テ終了スルヤ

判事按事登用試驗問題

英法第三問 ビモレイヤンダ 物品送狀ハ物品受取人ヨリ其讓渡ヲ受ケタル債主ニ如何ナル權利ヲ與フルヤ

○商事會社法問題

佛法第一問 差金會社ノ性質及社員ノ責任如何

佛法第二問 商事會社ノ資本ト爲スコトヲ得ヘキモノハ會社ノ種類ニ因テ區別アリヤ否之ヲ説明スヘシ

佛法第三問 商事會社解散ノ原因ヲ詳述ス可シ

英法第一問 組合員ハ組合ノ負債ニ對シ如何ナル義務アリヤ

英法第二問 退社シタル組合員及新メニ加入セル組合員ノ責任如何

英法第三問 私犯ニ對スル組合員ノ責任如何

◎明治廿一年試験

○刑法問題

第一問 犯人ノ多數ニ因リ刑ヲ加重スヘキ時ハ何故ニ教唆者ヲ算入シテ多數ト爲スコトヲ得サルヤ

第二問 正犯ノ刑ヲ加重減輕スヘキ時ハ從犯ノ刑モ亦之ヲ加重減輕セサル可ラ

サルヤ

第三問 親屬相盜ムニ便利ナル爲メ人ヲ故殺シタル者ノ處分如何

○治罪法問題

第一問 公訴私訴并起リタル片何故ニ公訴ノ裁判ニ先テ私訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ得サルヤ

第二問 令狀ノ種類及之ヲ發スル場合ヲ列記ス可シ

○財産法問題

佛法第一問 動産ト不動産トヲ區別スルノ實用ハ何レノ點ニ存スルヤ

佛法第二問 収實權者ト賃借主トノ差異如何

英法第一問 實産人産ノ無遺囑相續法ノ規則ヲ敘述ス可シ

英法第二問 殘財産及復歸産ノ性質及其區別ヲ説明ス可シ

英法第三問 有夫ノ婦ガ別産ヲ有シ得ヘキ場合ヲ列述スヘシ

○衡平法問題(英法受驗者ニ限ル)

第一問 信託トラストノ性質及其種類ヲ舉說ス可シ

第二問 遺囑ヲ爲シテ死亡シタル者ノ遺産處分方如何

第三問 義務實行ヲ許ス場合ヲ舉說スヘシ

判事檢事登用試験問題

○私犯法問題(英法受驗者ニ限ル)

第一問 私犯ノ定義ヲ爲シ且其定義ノ理由ヲ叙述ス可シ

第二問 名譽毀損ノ訴訟ニ於テ原告ハ如何ナル場合ニ於テ損害舉證ノ責ナキヤ

第三問 甲者ノ過失ニ依リ乙者ヲシテ死ニ至ラシメタル片英國習慣法及制定法ニ於テ乙者ト相續人ニ如何ナル訴權ヲ與フルヤ

○契約法問題

佛法第一問 連帶義務ノ目的タル物件其義務者中一人ノ過失ニ因リ滅盡シタル場合ニ於テ他ノ義務者ノ責任如何

佛法第二問 停止條件ヲ命シタル義務ト期限附キノ義務トノ間ニハ如何ナル差異アリヤ

英法第一問 錯誤ハ如何ナル場合ニ於テ契約ヲ無効ト爲スヤ

英法第二問 擔保ト條件トノ區別如何

英法第三問 甲者ト乙者トノ間ニ現在取結ヒアル契約ヲ履行ス可シト云フ約束ヲ以テ甲者ト丙者トノ間ニ取結ヒタル契約ヲ約因ト爲シ得ヘキヤ

○證據法問題

佛法第一問 公正證書ト私成證書トノ效力如何

佛法第二問 法定推測トハ如何其種別アラハ之ヲ述ヘシ

英法第一問 法律推測ト事實推測トノ差異ヲ説明スヘシ

英法第二問 記憶ヲ回復スル爲メニ呈出シタル書面トハ如何ナル利益アリヤ

○賣買法問題

佛法第一問 賣主代價ノ辨濟ヲ受ケサル場合ニ如何ナル特權ヲ有スルヤ

佛法第二問 或倉中ノ米悉皆ヲ一俵金若干ノ割合ニテ賣拂ヒタル場合ニ於テ買主ハ何レノ時ニ其所有權ヲ得ルヤ

英法第一問 英國詐欺條例中ノ賣買ニ關スル條項ヲ摘示スヘシ

英法第二問 甲者馬一頭ヲ乙者ニ賣渡シ其代金ヲ受取り且ツ曰ク此馬ノ南部産ナルヲ擔保スルト然ルニ後數日ヲ經スシテ買受人南部産ナラサルヲ發見セリ乙者ハ甲ニ對シ如何ナル要求ヲ爲スヲ得ヘキヤ

英法第三問 甲者ニ於テ乙者ニ或物品ヲ賣渡シタル單純ナル事實ハ甲者ニ於テ其所有權ヲ有スルノ擔保ヲ包含スルヤ

○代理法問題

佛法第一問 代理ト努力賃貸トノ差異如何

佛法第二問 保證人ハ債主ニ對シテ如何ナル特權ヲ有スルヤ

英法第一問 代人ニ於テ受任ノ事柄ヲ他人ニ再任シ得ル場合アリヤ

○書入期滿效法(佛法受驗者ニ限ル)

第一問 書入質ハ債主ニ如何ナル特權ヲ得セシムルヤ

第二問 期滿效ノ中斷ト其停止トノ差異如何

○訴訟法問題

佛法第一問 控訴ノ效果如何

佛法第二問 證人ト鑑定人トノ差異如何

英法第一問 召喚狀ニ特別裏書(スニシヤレインストロメント)ヲ爲スルハ如何ナル利益アリヤ

○商法問題

佛法第一問 佛國商法ニ商人トハ何ソヤ及商人ト非商人トヲ區別スルノ實用如何

佛法第二問 合名會社トハ如何且ツ合名會社ト他ノ會社ト相異ル要點如何

佛法第三問 爲替手形ニ年月日ヲ記載スルノ理由如何

英法第一問 組合ト會社トノ區別ヲ説明ス可シ

英法第二問 甲乙丙ノ三人組合商社ヲ組織シ銀行ノ營業ヲ爲ス而シテ丙ハ組合營業ノ實務ニ關係セス丁ナル者アリ自己ノ所有ノ公債證書ヲ保護預ケトナシ

タル甲ハ丁ノ承諾ヲ經スシテ其公債證書ヲ賣却シ代金ヲ私用セリ而シテ乙ハ其賣却ノ事實ヲ知り丙ハ全ク之ヲ知ラス丁ハ甲乙丙ニ對シ如何ナル權利ヲ有スルヤ

○流通證書法問題(英法受驗者ニ限ル)

第一問 流通證書ニ必要ナル元素ハ何々ナルヤ

第二問 流通證書ノ所持人甲ハ裏書人乙ニ對シ訴訟ヲ提起シ裏書人ハ證書面ノ金額ヲ甲ニ拂渡スヘシトノ義務ヲ受ケタリ振出人其他ノ義務者ハ此裁判ニ依リ其責任ヲ脱シタリヤ

第三問 裏書ノ方法及種類如何

○保險法問題(英法受驗者ニ限ル)

第一問 船舶保險ノ場合ニ於テ通航トハ保險契約ヲ無効ト爲スニ付如何ナル差異アリヤ

○民法問題(獨法受驗者ニ限ル)

第一問 客觀的(オブジェクティブ)及主觀的(ズブジェクティブ)意義ノ「レヒト」トハ如何ナルコトヲ意味スルヤ

第二問 客觀的意義ノ「レヒト」ノ類ヲ列記セヨ

判事檢事登用試驗問題

第三問 權利能力(レヒツフエーヒカイト)及行爲能力(ハンドルンゲスフエーヒカイト)トノ區別ヲ問フ權利能力ハ何ニ依テ生スルヤ

○商法問題(獨法受驗者ニ限ル)

第一問 所有權(アイゲンツーム)現有權(ベチャツ)ノ區別

第二問 所有權獲得ニ自始(ヨリギキール)他導(デリパチーブ)ノ二種アリ其區別ヲ問フ

第三問 爲替券裏書(インドサメント)トハ何モノツ又爲換券裏書ハ債主權讓與(チユシヨン)ト如何ナル區別アリヤ

第四問 商事法律(商法)商事習慣及民事法律ノ效力ハ互ニ如何ナル關係ヲ有スルヤ

第五問 商人トハ如何シテ商法ニ規定スル商人ノ負擔スヘキ特別ナル義務ヲ問フ

第六問 「ラツフエチ」會社(組合)又「ステルン」會社(ステルレトハ暗黙ノ義株券會社ノ區別ハ如何

第七問 何人ヲ仲買人(コシツシヨキール)ト稱スルヤ又(コミツシヨキール)ト稱スルヤ又(コミツシヨキール)ハ取扱人(ハレデルスメクレル)ト如何ナル區別ヲ有ス

ルヤ

第八問 船中貸借(ギードメライ)通常貸借(ダールレーン)ノ區別如何

第九問 自拂爲替(約束手形)ト他拂爲替ノ區別ヲ問フ

第十問 他拂爲替ノ要件ヲ擧ケヨ

第十一問 爲替能力ノ要件ヲ問フ

第十二問 爲替訴訟ニ於テ如何ナル辯駁(アインレーデ)ヲ許スヤ

○訴訟法問題(獨法受驗者ニ限ル)

第一問 民事裁判所ノ權限

第二問 飲席判決(フェルソエムニスウルヌイル)一部判決(マイル、ゲルマイル)中間判決(ツガ非ツセンウル、マイル)トハ如何又如何ナル時ヲ以テ判決ト確定スルヤ

第三問 舊地位復置(ウイデル、アインセツツングインテン、フホーリーケンスマン)ト訴訟ノ再審(ウイデルエウフナーメデス、フェルファアーレンス)ノ區別ヲ問フ

第四問 主種訴訟交渉(ハウプトインテルヴァエンチラン)復權訴訟交渉(キーベンインテルウエンチラン)トハ如何

第五問 訴訟法ニ記載セル通常上訴種類ヲ問フ

第六問 婚姻事件訴訟ニ付訴訟法ハ如何ナル特別ナル規定ヲナセルヤ

判事檢事登用試験問題

◎明治廿二年試験

○刑法問題

第一問 正當防衛ト總則中ノ不論罪トハ何レノ點ニ於テ其性質ヲ異ニスルカ
 第二問 竊盜ヲ教唆セラレタル者凶器ヲ携帯シテ住居ニ入り之ヲ犯シタルハ
 教唆者ノ刑モ亦加重スヘキヤ(但教唆者ハ右加重ノ情狀ヲ前知セサリシト事實
 トス)

第三問 人ヲ殺サンカ爲メ其住家ニ火ヲ放チタルニ家屋ハ半燒ニ止リ其人ノ生
 命ヲ害スルニ至ラサリシハ放火者ノ處分如何

○治罪法問題

第一問 公訴私訴並ヒ起リ公訴ノ無罪又ハ免訴トナリタルハ刑事裁判所ハ私
 訴ニ付如何ナル言渡ヲナス可キヤ

第二問 公判々事無罪ノ言渡ヲ爲ス可キ場合ニ免訴ノ言渡ヲナシタルハ被告
 人上告ヲ爲スコトヲ得ルヤ

第三問 明治十八年一月人ノ私印ヲ偽造シ置キ明治二十年一月ニ至リテ之ヲ行
 使シ廿二年一月公訴起リタリ此場合ニ於テ裁判官ハ如何ナル言渡ヲ爲スヘキ

○民法問題

佛法第一問 甲者ヨリ乙者ニ或家屋ヲ賣拂ンコトヲ約セリ但所有權ハ代金仕拂
 ノ時迄移轉セサルノ約定トス然ルニ代金仕拂ノ前ニ於テ右家屋ハ賣主ノ過失
 ニ起因セサル火災ニ罹リテ燒失セリ買主ハ尙代金辨濟ノ義務ヲ負フヤ

佛法第二問 賣買解除ノ原因ト其取消ノ原因トヲ列舉シ併セテ解除ト取消トノ
 差異ヲ示ス可シ

佛法第三問 總理代人ノ權限如何

佛法第四問 連帶債務者ノ一人債務ノ辨償ヲ認求セラレタル場合ニ於テ其共同
 債務者中ノ或一人カ債權者ニ對シテ得タル債權ヲ以テ相殺ノ抗辯ト爲スコトヲ
 得ルヤ

佛法第五問 連帶債務者ノ一人債權者ト債務ノ更改ヲ爲スニ當リ共同債務者ノ
 財産上ニ其承諾ナクシテ舊抵當ヲ貯存スルコトヲ得ルカ

佛法第六問 地役ノ不可分ト書入ノ不可分トヲ對比シ其各ノ本義ヲ詳述スヘシ

英法第一問 營業ヲ制限シタル契約ハ如何ナル場合ニ於テ有效ナリヤ
 英法第二問 甲者アリ乙者ヨリ金千圓ヲ借用シ期限ニ至テ其返濟ノ義務ヲ怠レ

リ然ルニ甲者ハ金五百圓ヲ以テ右千圓ニ對スル義務ノ解除ヲ申込ミ乙者之ヲ承諾シテ五百圓ヲ受領セリ右ノ場合ニ於テ千圓ニ對スル甲者ノ義務ハ解除セラレタルヤ其理由ヲ付シテ判決ス可シ

英法第三問 動産遺囑ノ種類ヲ列擧シ其各項ニ付説明ス可シ若シ各種ノ遺囑ニ對シ遺産ノ不足アルキハ如何ナル方法ニヨリテ之ヲ配分スヘキヤ

英法第四問 侵界ヲ正當ナリトシテ抗辯シ得ル場合如何

英法第五問 人力車夫アリ規則ニ背キテ駐車場外ナル公道ノ側ニ其車ヲ置キ去レリ偶々乗馬ノ一官員過度ニ其馬ヲ疾驅シ車ニ觸レテ之ヲ破壊セリ右ノ場合ニ於テ車夫ハ官員ニ對シ車ノ損害金ヲ要求シ得ルヤ其理由ヲ付シテ判決ス可シ

英法第六問 暗黙信託ノ性質及種類ヲ説明シ各其適例ヲ擧示ス可シ

獨法第一問 法人ノ性質ヲ説明ス可シ又會社ト組合トノ區別如何

獨法第二問 質權ト自除ノ他物權及請求權トノ關係ヲ詳説ス可シ

獨法第三問 自己ノ所有ノ藥液ヲ他人所有ノ鑛物ニ踐キ新ニ用形化合物ヲ得ヌ

獨法第四問 履行ノ不能ハ契約ノ成立及取消ニ如何ナル効力ヲ及ホスヤ又契約

ノ成立タル後ニ起リタル履行ノ不能力履行期限前ニ消滅シタル時契約ハ再ヒ其効力ヲ回復スル乎

獨法第五問 債務ノ相殺ヲ爲スコトヲ得ル場合如何

獨法第六問 相続人ノ受續クヘキ義務及受續カサル義務ヲ擧クヘシ

○商法問題

佛法第一問 商事會社ノ法人ナル結果如何

佛法第二問 爲替手形裏書ト通常ノ債權讓渡シトノ効力ノ差異如何

佛法第三問 裏書人遞次數名アル場合ニハ其相互ノ關係如何

英法第一問 代人カ本人ニ對シテ差止權ヲ執行シ得ル場合及之ヲ執行スルニ付

必要ナル條件ヲ解説ス可シ

英法第二問 船舶抵當ト普通ノ抵當トノ間ニハ如何ナル差異アリヤ

英法第三問 買賣物品ノ所有權ヲ移轉スルニ付確定物品ト不確定物品又條件付

確定物品ト條件ナキ確定物品トノ間ニ差異アリヤ

獨法第一問 賣買契約履行ノ淹滯ハ賣主及買主ノ權利義務ニ如何ナル結果ヲ生

スル乎

獨法第二問 保險契約ノ効力ヲ生セサル場合并ニ其効力ヲ失フ場合ヲ擧ケ其理

由ヲ示ス可シ

獨法第三問 共擔海夫ト持擔海擔トノ區別ヲ説明シ各一二ノ適例ヲ擧ク可シ

○訴訟法問題

佛法第一問 裁判管轄ノ種別及其種別ノ實用如何

佛法第二問 裁判言渡ノ結果如何

佛法第三問 上告ノ一原由ト定メタル越權トハ如何ナルモノヲ云フヤ

英法第一問 交互抗辯トハ如何ナルモノナリヤ又如何ナル場合ニ於テ此方法ヲ

使用シ得ルヤ

英法第二問 第三者ノ陳述ヲ聞キタル證人ハ何レノ場合ニテモ之ヲ證明シ得ル

乎

英法第三問 二等證據ニ階級ナシト云フ原則ノ意味ヲ解説ス可シ

獨法第一問 如何ナル場合ニ於テ訴訟共同ヲ許サ、ルコトアリヤ

獨法第二問 如何ナル人ハ證言ヲ拒ムコトヲ得ル乎

獨法第三問 抗辯ノ種類ヲ擧ケ其例ヲ示ス可シ

◎明治廿三年試驗

○刑法問題

第一問 重罪輕罪違警罪ハ如何ニシテ區別スルヤ且其區別ノ實益如何

第二問 無效犯ト不能犯トハ如何ニシテ區別スルヤ例ヲ擧ケテ詳述セヨ

第三問 偽證罪ヲ成立スル要素如何

○刑事訴訟法問題

第一問 被害者ノ相續人ハ私訴ヲ行フコトヲ得ルヤ

第二問 豫審ト公判トハ如何ナル點ニ於テ差異アリヤ

第三問 告訴ヲ要スル事件ニ付被害者特ニ共犯中ノ一人ニ對シテ告訴ヲ爲シタ

ルハ他ノ共犯人ニ對シテ公訴ヲ起スコトヲ得ルヤ

○民法問題

第一問 土地ニ附着セル果實ハ常ニ不動産ナルヤ若シ然ラストセハ其場合ヲ示

セ

第二問 相殺ハ如何ナル人ノ間ニ互ニ對抗セラル、コトヲ得ルヤ

第三問 追奪擔保ノ目的如何

第四問 抵當不動産ノ第三所持者抵當債權者ヨリ義務辨濟ノ請求ヲ受クルハ其

第三所持者ノ權利義務如何

刑事投事登用試驗問題

第五問 自白不可分トハ如何ナル意カ其例ヲ示セ

○商法問題

第一問 合名會社ト株式會社トノ差異如何

第二問 爲替手形支拂人ニ於テ引受ヲ爲シタル片ハ其結果如何

第三問 仲買人ト普通代理人トノ差異ノ詳細ヲ問フ

○民事訴訟法問題

第一問 故障ハ如何ナル事由ニ依リ又如何ナル裁判所ニ申出ツヘキカ

第二問 附帶控訴(アツベル、インシデント)ノ利益如何

○裁判所構成法問題

第一問 各種ノ通常裁判所ノ權限如何

◎明治廿四年試驗

○刑法問題

第一問 天災又ハ意外ノ變ニ因リ避ク可ラサル危難ニ遭ヒ自己若クハ親族ノ身

體ヲ防禦スルニ出タル所爲ト正當防禦ニ出テタル所爲トノ區別如何

第二問 罪ヲ犯ス意ナキノ所爲ト罪トナルヘキ事實ヲ知ラスシテ犯シタル所爲

トノ區別如何并ニ其適例ヲ示セ

○刑事訴訟法問題

第一問 刑事上ノ證據ト民事上ノ證據ト異ナル所以如何

第二問 被告人公訴ノ欠席判決ヲ受ケタル場合ニ於テ檢事ハ其判決ニ對シ上訴

スルコトヲ得ルヤ若シ上訴スルコトヲ得ルトセハ其上訴中被告人ヨリ故障ヲ申

立受理セラレタル時ハ其處分如何

○民法問題

第一問 物權ト人權ノ性質並ニ之ヲ區別スル利益如何

第二問 詐偽カ合意ニ及ホス影響如何

第三問 買賣契約ハ何レノ場合ニ於テ所有權ヲ移轉スルモノナリヤ

第四問 代人ノ越權ニ出タル所爲ヨリ生スル利益ハ何人ニ屬ス可キヤ

○商法問題

第一問 會社契約ニ定メタル營業以外ノ事ニ付取締役(會社ノ代理人)カ契約シタ

ル後株主總會ノ承諾ヲ得タル片ハ其契約ヲ行フノ義務アリヤ否ヤ

第二問 手形上ノ連帶義務トハ如何ナルモノナルヤ

第三問 海上保險ニ付テハ如何ナル場合ニ於テ被保險物ノ普通價格ヲ超ヘテ保

險ニ付スルコトヲ得サルヤ若シ被保險利益ヲ超過シタル場合ニ於テハ其保險契
約ハ全ク無効ニ屬スルヤ

○民事訴訟法問題

- 第一問 中間判決ト終局判決ノ性質及其效果ノ差異如何
- 第二問 請求ノ一定ノ原因トハ如何ナルモノニヤ其之ヲ訴狀ニ掲クルノ要件ト
ナシタル理由如何

○裁判所書記登用試験問題

◎明治廿一年試験

○刑法問題

- 第一問 犯罪ノ着手ト豫備トノ區別如何
 - 第二問 放火罪ニ就キ人ノ住居シタル家屋トハ如何ナルモノヲ指示スルヤ
- 治罪法問題
- 第一問 召喚狀ト拘引狀トノ差異及拘留狀ト収監狀トノ差異如何
 - 第二問 法律ニ於テ被告事件ノ模様ニ因リ有罪ナルノ推測ヲ定ムルコトナシトノ
推定ヲ説明スヘシ

○民事訴訟手續問題

- 第一問 控訴ト上告ノ區別ヲ詳述ス可ク其間ニ於テ其ノ手續ニ關スル事項ハ如何ナル
第二問 如何ナル物件ハ身代限ノ場合ニ於テ抵償トナシテ差押フ可カラサル乎

○作文題

第一 (漢字交リ)

鐵道敷設許可願

第二 (通信文)

家屋明渡催促ノ文

○筆寫題

第六條 樞密院ハ左ノ事項ニ付會議ヲ開キ意見ヲ上奏シ勅裁ヲ請フヘシ

- 一 憲法及憲法ニ附屬スル法律ノ解釋ニ關シ及豫算其他會計上ノ疑義ニ關
スル爭議
- 二 憲法ノ改正又ハ憲法ニ附屬スル法律ノ改正ニ關スル草案
- 三 重要ナル勅令
- 四 新法ノ草案又ハ現行法律ノ廢止改正ニ關スル草案列國交渉ノ條約及行
政組織ノ計畫

裁判所書記登用試験問題

五 前諸項ニ掲クルモノ、外行政又ハ會計上重要ノ事項ニ付特ニ勅令ヲ以テ諮詢セラレタルルキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルルキ

第七條 前條第三項ニ掲ケタル勅令ニハ樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載スヘシ

第八條 樞密院ハ行政及立法ノ事ニ關シ天皇ノ至高ノ顧問タリト雖モ施政ニ干與スルコトナシ

(右ハ楷書行書草書ニテ各一通ヲ作ラシム)

○筆算問題

第一問

毎日午前七時ヨリ午後三時十五分迄働キ七人ニテ十二日ニ八町四反ヲ耕セリ今マ毎日午前六時三十分ヨリ午後五時三十分迄働キ二十人ニテ二十町八反ノ地ヲ幾日ニ耕スヤ

第二問

騎兵ハ三時四十分ニ十里ヲ走リ歩兵ハ五時間ニ八里ヲ行クヘシ今騎歩兵ハ同時ニ出立シテ若干里ヲ進ミシ後騎兵ハ歩兵ヨリ先ニスルコト三十一里ナリ然ルルキハ

幾時ヲ進ミシヤ

○簿記問題

第一問

甲商社ヨリ乙商社宛ノ到着即時拂金五百圓ノ爲換手形ヲ振り來リシニ付第一國立銀行小切手金三百圓ト第三國立銀行小切手金貳百圓トヲ以テ拂ヒ渡シタルルキ此仕拂ヲ爲シタル商社ニ於テ日記簿貸借如何

(右普通商家簿記腹記式ヲ以テ答フルモノトス)

第二問

甲商社ヨリ乙商社へ拂渡スヘキ勘定金八百圓アリ依テ甲商社ハ丙商社ノ振出手形ヲ以テ乙商社ノ勘定ヲ返却セリ此時甲乙丙ノ日記簿ニ於テ貸借如何

(右普通商家簿記單記式ヲ以テ答フルモノトス)

○珠算問題

門内ニ石ヲ敷カントス長サ一尺五寸巾八寸ノ石ヲ用ユルルキハ十五萬枚ヲ要ス若シ長サ一尺二寸巾五寸ノ石ヲ用ユルルキハ其數幾何ナルヤ

○書取題

(公判始末書ヲ朗讀シテ書取ラシムル之)

裁判所書記登用試験問題

◎明治廿二年試験

○刑法問題

第一問 刑ニ期滿免除ヲ得ルモノト否ラサル者トアリ其理由如何

第二問 裁判官ニ賄賂ヲ送リ不正ノ裁判ヲ爲サシメタル者ハ賄賂收受罪ノ教唆ヲ以テ論スルヤ否ヤ理由ヲ付シテ答辯スヘシ

○治罪法問題

第一問 法律ニ於テ證人ト爲ルヲ許サ、ル者ト證人タルヲ拒ムヲ許ス者トアリ其理由如何

第二問 刑事ハ民事ヲ中止スルノ理由如何又其中止ハ何レノ時ニ迄及フヘキ乎

○民事訴訟手續問題

第一問 勸解調和シタル片ハ執行命令書ヲ下付スルヲ得ルヤ否ヤ理由ヲ付シテ答辯スヘシ

第二問 公正證書ヲ以テ執行ヲ爲スニ當リ義務者ヨリ相殺ヲ以テ對抗シタル片ハ其執行ハ停止スヘキ歟

○作文題

◎第三十漢字交文

控訴院檢事長ヨリ司法大臣ニ宛テタル刑事訴訟ニ關スル報告書(其件數ノ増シ又ハ減シタルコト其理由并ニ將來ノ増減ニ關スル見込ヲ述フルナリ)

第二 通信文

甲 裁判所書記局ヨリ乙 裁判所書記局ヘノ照會書廻送書類中目錄ニ照シテ不足ノ分アルニ付其送付ヲ促カス者ナリ

○筆寫題

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其康福ヲ増進シ其懿德良能ヲ發達セシメンコトヲ願ヒ又其翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持センコトヲ望ミ乃チ明治十四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及臣民及臣民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム

○筆算問題

甲 第一問 蒸氣車百貳拾哩ヲ達スルニ四時間半ヲ費ストスレハ十五時間ニ幾哩ヲ走ルヤ

裁判所書記登用試驗問題

第二問

甲乙ノ兩人商業ヲ爲スニ甲ハ元金七百五十圓ヲ出シ乙ハ五百圓ヲ出シテ千三百七拾五圓ヲ得ルルハ各元金差引幾圓ツ、ノ所得ナルヤ

○簿記問題

第一問

米國ニウヨーク府甲商社賣捌ヲ依頼センカ爲メ「ポストン」號ノ漁船ヲ以テ紅茶千箱ヲ送遣ス但商品代價金五萬圓遞送費ハ現金ヲ以テ金八百圓ヲ仕拂ヘリ此送遣ヲ爲シタル商社ノ帳簿ニ於テ貸借ノ仕譯如何

(右普通商家簿記式ヲ以テ答フルモノトス)

第二問

甲商社ヨリ賣捌ノ依頼ヲ受ケタル物品ノ新聞廣告料金七圓藏敷料一ヶ月分金五十圓ノ支出ヲ要ス依テ廣告料ハ現金藏敷料ハ本社ノ仕拂手形ヲ以テ支出セリ此支出ヲ爲シタル商社ニ於テ日記簿ノ貸借如何

(右普通商家簿記單記式ヲ以テ答フルモノトス)

◎明治廿三年試驗

○刑法問題

第一問 未遂犯ト無効犯トノ區別如何

第二問 犯罪ノ用ニ供シタル物件トハ如何ナルモノヲ謂フ乎

○治罪法問題

第一問 令狀ノ種類及ヒ令狀ヲ發スル場合如何

第二問 裁判ハ何レノ時ニ於テ確定スル乎

○訴訟手續問題

第一問 財産差押ノ手續如何

第二問 勸解ト訴訟ノ差異如何又訴訟ヲ起スニハ必ス勸解ヲ經ルヲ要スルカ

○作文題

第一 (漢字交リ)

友人ニ法律學ヲ勸ムルノ文

第二 (往復文)

甲裁判所判事ヨリ乙裁判所判事ニ證人訊問ヲ囑託スルノ書

○筆寫題

朕曩ニ司法ニ詔シ國家ノ成憲ニ原キ各國ノ定律ヲ酌シ改定律例ヲ修撰セシム今

編纂成ヲ告ク朕乃チ内閣諸臣ト辯論裁定シ之ヲ頒行セシム爾臣僚其ノ之ヲ遵守セヨ

(右ハ楷書行書草書ニテ各一通ヲ作ラシム)

○算算問題

- 一 蒸氣車百貳拾哩ヲ達スルニ四時半ヲ費ストスルハ十五時間ニ幾哩ヲ走ルヤ
- 二 甲乙ノ兩人商業ヲ爲スニ甲ハ元金七百五拾圓ヲ出シ乙ハ五百圓ヲ出シテ千三百七拾五圓ヲ得ルルハ各元金差引幾圓ツ、ノ所得ナルヤ

○簿記問題

- 一 甲商店ヨリ乙商店ヘ代價千圓ニテ茶貳千斤ヲ賣ルニ半額ハ現金半額ハ三十日間ノ猶豫ニテ賣渡スルハ甲商店ノ仕簿簿貸借如何

○執達吏登用試験問題

◎明治廿三年試験

○治罪法問題

- 第一問 治罪法ニ從ヘハ書類送達ヲ爲スコトヲ得ナル日時ハ如何

○民事訴訟法問題

- 第二問 民事訴訟法ニ從ヘハ書類送達ハ何人ニ之ヲ爲スヤ
- 第三問 有體動産ヲ有效ニ差押フルハ如何シテ爲スヤ

○執達吏規則ニ關スル問題

- 第一問 執達吏ハ如何ナル場合ニ於テ職務ヨリ除斥セラル、ヤ
- 第二問 執達吏ハ當事者ノ委任ニ應セサルコトヲ得ルヤ

○算術問題

- 第一問 牧夫羊ノ一群ヲ有チ其五分ノ一ヲ甲所ニ置キ其六分ノ一ヲ乙所ニ置キ残り七百七十九疋ヲ算フ問フ一群ノ惣計如何
- 第二問 或人三百圓ノ金ヲ三子ニ分チ長子ニ七十五圓次子ニ百二十五圓其殘金悉ク第三子ニ與ヘヌリ各分數如何
- 第三問 一時三十分間ニ三分時ツ、二ヶ所ニ止リ五十八里ヲ行ク蒸氣車アリ今四百三十五里ノ道ヲ行クニ四分時ツ、五ヶ所ニ止リ幾時間ニ着スルヤ
- 第四問 人アリ馬三頭ヲ七ヶ月養ヒシ費金三拾二圓六拾三錢七厘ナリ其割ヲ以テ二頭ヲ十一ヶ月養フ費用如何

○讀書題

殺逆大惡也其爲罪也莫贖其於人也不容其在法也無赦法施於人雖小必謹況舉大法

而加大惡乎既輒加之又趣赦之則自侮其法而人不畏春秋用法不如此之輕易也
○筆寫題(畧之)

行試驗法令及問題 終

明治廿六年五月廿三日印刷
明治廿六年五月廿六日發行

(正價金拾五錢)

著作所

東京神田區裏神保町七番地

明法堂編輯部

印刷者

東京神田區裏神保町七番地

鈴木敬親

印刷所

東京神田區錦町三丁目一番地

同志社活版所

發行所

東京神田區裏神保町七番地

明法堂

而加大惡乎既輟加之又趣赦之則自侮其法而人不畏春秋用法不如此之輕易也
○筆寫題(零之)

七〇

行印 試驗法令及問題 終

明治廿六年五月廿三日印刷
明治廿六年五月廿六日發行

(正價金拾五錢)

著作所

東京神田區裏神保町七番地

明法堂編輯部

印刷者兼

東京神田區裏神保町七番地

鈴木敬親

印刷所

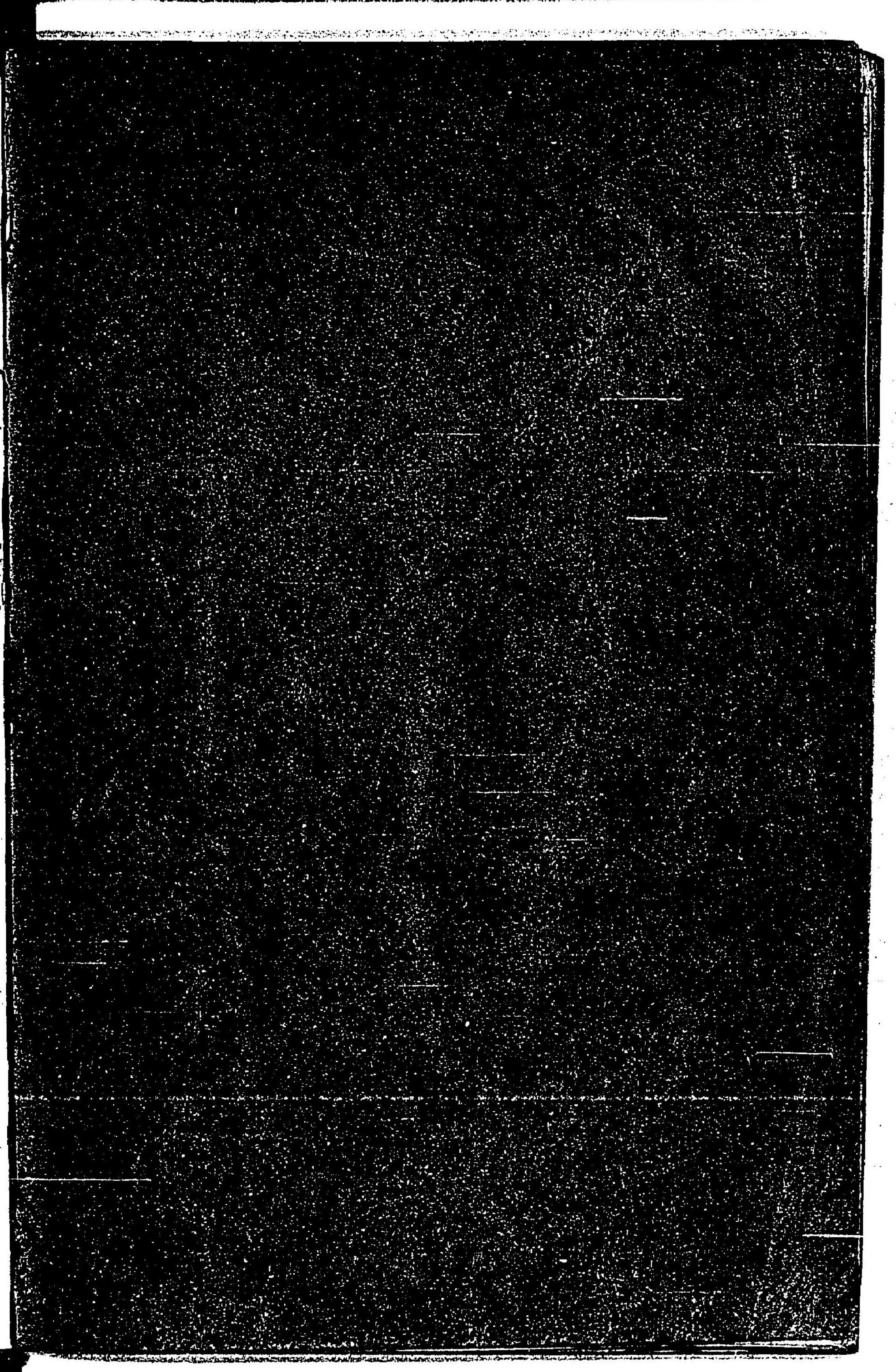
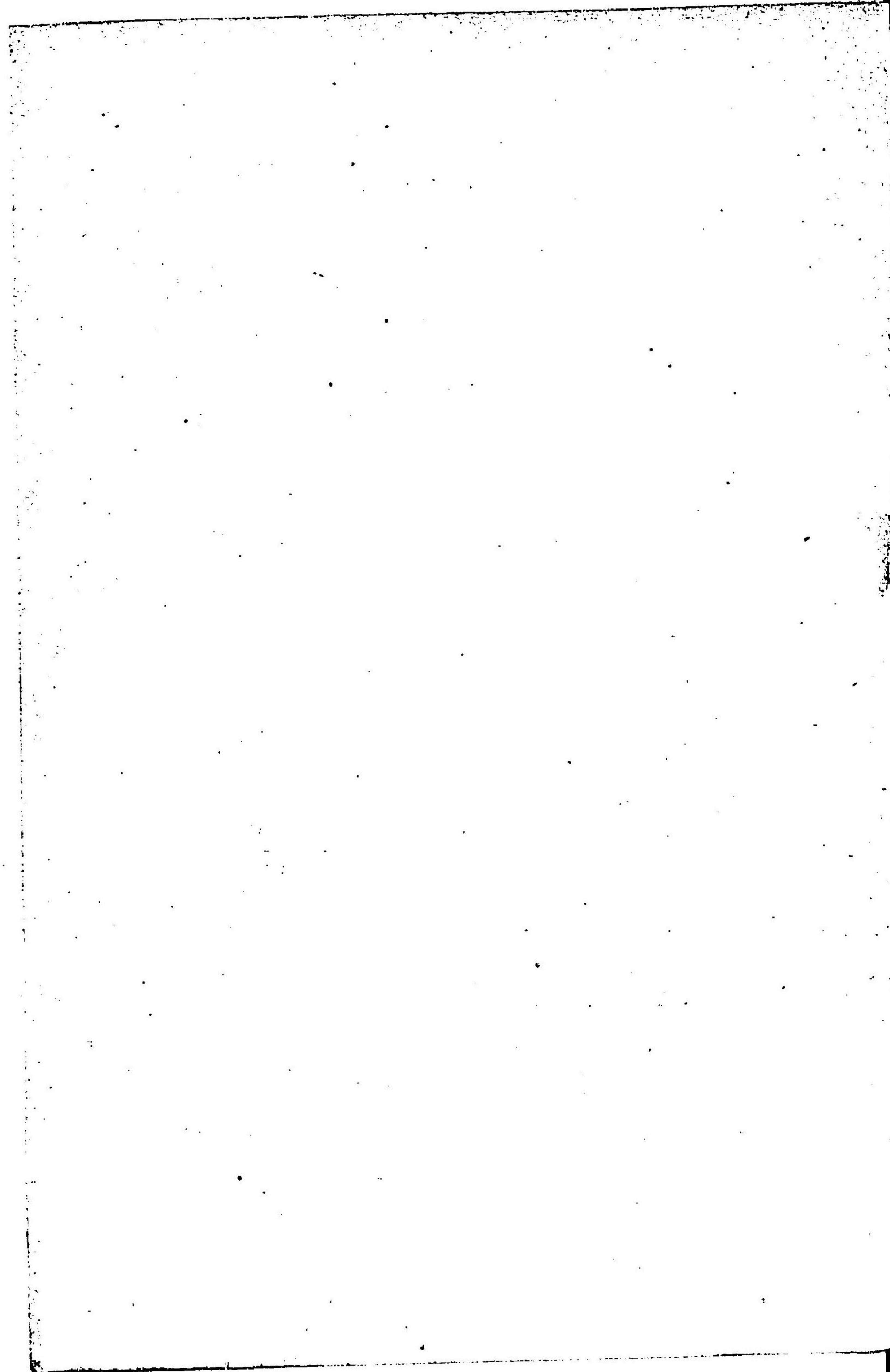
東京神田區錦町三丁目一番地

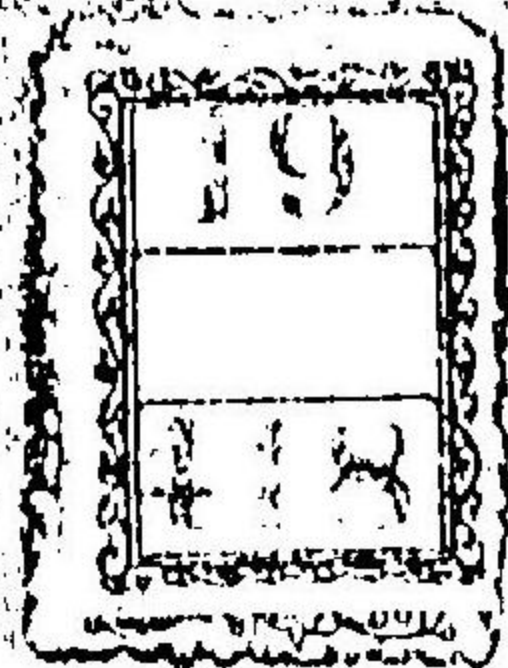
同志社活版所

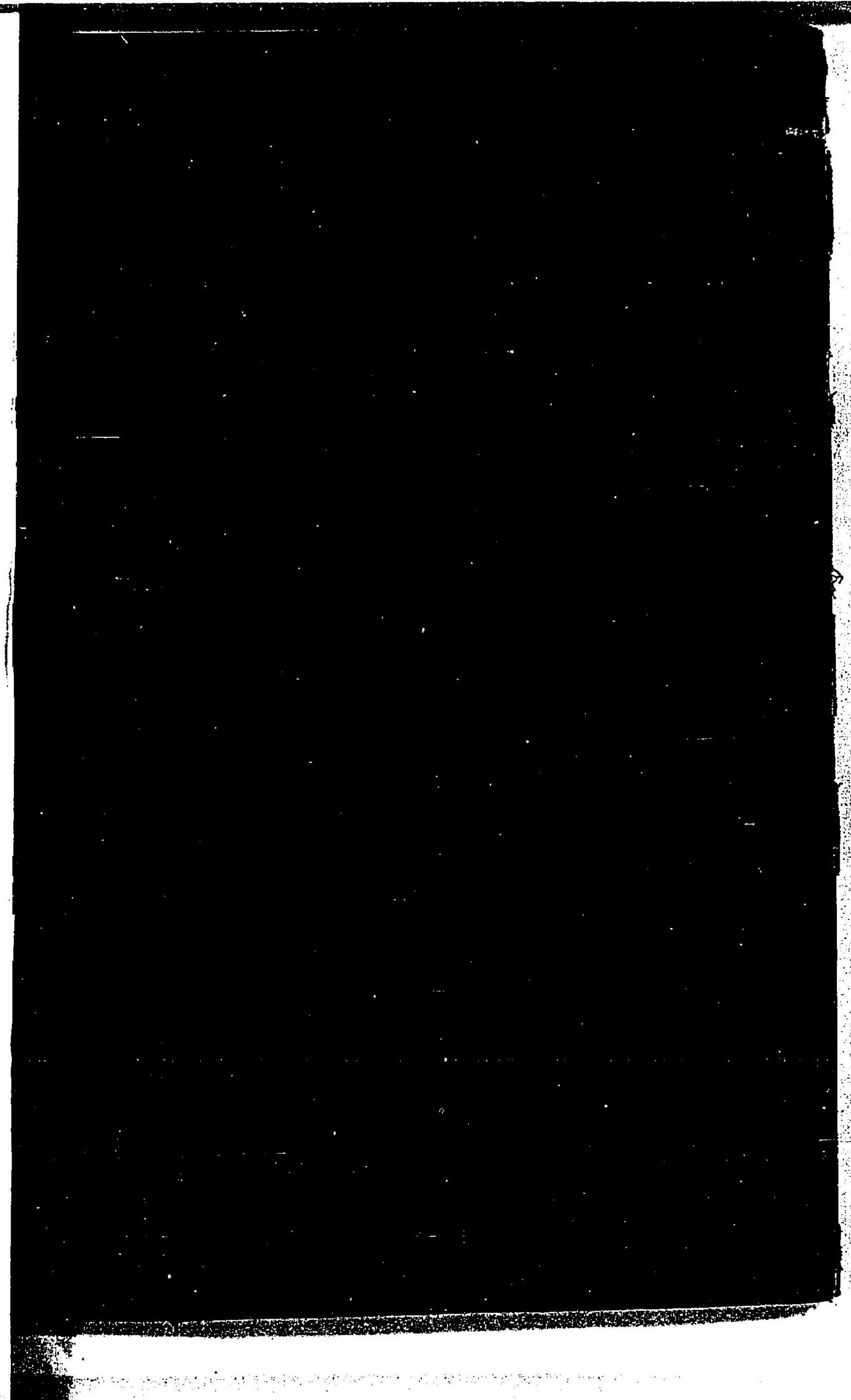
發行所

東京神田區裏神保町七番地

明法堂







19

418

030222-000-9

19-418

現行試驗法令及問題

明法堂

M26

BBA-0696

